死神さんたちの日常

omegazero

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

【小説タイトル】

死神さんたちの日常

Z ロー ド]

【作者名】

o m e ga z e r o

【あらすじ】

と想像しないそんな死神たちのお話です... コート纏って顔が骸骨な奴?それとも黒崎 死神...これを聞いた皆様はどんな奴を思い浮かべますか...?黒い 護 ? このお話はきっ

まぁ最初みたいな奴だ。 (前書き)

ジで!な方や原作壊すな————!!な人...申し訳ないっす。でも どうも!zeroです!三作目でございます。こうゆうの駄目だマ がんばっていこうと思います。

では第一話どうぞ!

まぁ最初みたいな奴だ。

?「ふぁ////ねむい.....」

眠そうに には眼帯、 している男がいた。 そして.....[血] にぬれた大鎌を持っていた。 その男は全身真っ黒の服装をして左目

そんな始まり。

? しまらない始まりだな...この作品..まぁ いっか」

さあさあこれから始まるのは不思議な世界のことである...]

- 「零さああああああああああん?!」

第444番駐屯所の一番上の人?の零を呼ぶ叫びが聞こえる。 冥界第102番:死神第444番駐屯所があるところである...死神 なことは日常茶飯事なのだが... そこは冥界の端っこ…俗にゆう" 死 神 " とよばれるものたちがいる こん

死神男c「 死神男A「 またか.....」 おいおい... (汗 死神男B「 あぁ (温かい目」

死神A「 またミコの奴叫 んでるぜ...」 死神男B「どうせいつもと

おんなじだろ?」 死神男C「 いっつも飽きないなぁ

「零さん!どこにいるんですか?また仕事さぼっ 7

ミコとはこの女の死神である。 階級は下の上まぁ下っ端です。

ミコ「むむむ... みつかりません... このままじゃ... そうだ!」

ミコは何か思いついたようだ。 頭の上に電球がピカッと光っている。

ます!」 ミコ「零さん !仕事しないんだったら...あ・ま・ ١J も・ の

死神ABC「 「まさか...そんなんで出てくるわけ...」

「それだけはぁ !やめてくださぁぁぁぁ あ あ ああ あ あ 11 (涙目」

死神ABC「 \neg バ力なあああああ あああ あ あああ あ ?

ミコ「まったく...なんでいっつも仕事さぼるんですか?零さんは?」

零「だって...めんどくさいじゃん...」

ミコ「さぁ!仕事タイムです!!」

零「..... (絶望しきった目」

光景は音楽が流れそうであった.. 零はミコに首根っこ捕まれてズルズルと引きずられていった...その

ドナドナド~ナ~ど~な~みたいに..

まぁ最初みたいな奴だ。 (後書き)

次回も見ていただけるとうれしいです 感想、意見などありましたらドンドン送ってください。 ふっふふ...台詞の前に名前があるのは許してください。

まぁ第二話みたいな話だ。 (前書き)

pspにて投稿するので変な所とかあると思います。 そこはご指摘

お願いします。

都」でも聞きながら・・・ ここでテーマ曲みたいなもの では第二話です。どうぞ! 東方妖々夢 原曲 「天空の花の

まぁ第二話みたいな話だ。

零

「う"あ~~~」

前回のあらすじ・ を人?質にされたのでがんばろうとしていた・・ ・零は仕事をさぼっていた所、ミコに甘いもの

 \equiv

「だらしないですよ!零さんシャキッとしてください。

零

「そうはいってもねぇ・・・

そう言ってから零は目の前の仕事を見て言った。

零

「こ・れ・は無いだろ・・・」

仕事は机の上にチョモランマ並に積み上げられていた。

「さぁ!やりますよ!」

Į.

「なんでお前はそんなにやる気に満ち溢れているんだ?

 \equiv

「もう紅もラムダもやってますよ?」

「それってさー

? = =

「あれか?」

そういった零の視線の先に燃え尽きた様なナニカがいた。

「・・・・」

紅と思われるもの

「あはははははははは・

ラムダ (以下略

「けけけけけけ・

まぁ第二話みたいな話だ。 (後書き)

意見や感想などあったらお送り下さい。 できたぜ!ケドなんかpspでやると文字あんまだせませんね・

ではまた次回。

まぁ第三話みたいな話だ (前書き)

三話目です。学園黙示録のopでも聞きながらどうぞ。

```
零&ミコ
          前回のあらすじ
          仕事 + 仲間 + チョモランマー
           以上!
```

零

「以上じゃねーよ。」

7

ラムダ 「おー いラムダー?紅?」

「なんだバカ野郎」

「シネ。クソ野郎」

零

「ひどい!」

 \equiv

「はぁ 早く終わらせないと映姫様とかハデス様に怒られます

よ?

全員

「・・・やるか」

キングクリムゾン!!!

全員

「終わったあああ・・

零

「頭痛てえ・・・」

「自業自得ですよ!」

零

「言い返せない・・・

\equiv

「じゃあこれは提出しますねぇ」

っ は い、

ガチャ、 カツカツカツカツ・・はい・・・」

「こけるな「うにああああああ!?」

「こけやがった・ ・ドジッ子?」

零は目を閉じた。

零はしばらく過去の記憶を思い出していた・・ 「そういえば、まだ人間だった頃一人ドジな奴いたな・

まぁ第三話みたいな話だ (後書き)

すいません!変になりました・・・

読んでいただきありがとうございました。 トラブルの作品も制作中です。よければ読んでみて下さい!

まぁ俺の古い記憶って奴だ (前書き)

零の記憶編です。 ・・・でしたが、予定変更します。 あったかもし

れない話です。すみません

まぁ今回の音楽はひぐらしのなく頃にのOPでも聞きながらどうぞ

まぁ俺の古い記憶って奴だ

零

めんどくさいな...記憶か...あれは俺が12の頃かな...」

零

零

「うるさいなぁ...少しは静かにできないのかな?朱里」

朱里は俺の隣の家に住んでいる女の子だ。 ろをちょこちょこついてくる奴... 小さな頃からよく俺の後

朱 里

「ねえねぇ零!見てよこれ!」

零

「あんだよ?そ・れ・」

朱里

「なにって...わたしのテストだよ?」

零

「そりゃ見りゃわかるよ。それが何なんだ?」

朱 里

「褒めて!」

朱里の腰のところに犬の尻尾が見える... 幻覚かよ...

「アーアーソレハスゴイデスネー (棒読み)」

朱里

「むむむ...心がこもってないよ?しっかり褒めてよ!」

「なぜ?...」

朱里は人気がある。 可愛いし犬みたいだから。 だからこうしてコイ

ツといると...

おい!零!」

「はぁ... (こうゆう奴がくるんだよな... めんどくさ」

コイツは勝也。俗にゆういじめっ子ってやつ

勝也

「朱里ちゃん、 コイツちょっとかりるね?」

朱里

「???い いけど」

零と勝也は路地裏にいった

勝也

「おい零!いいかげんに朱里からはなれろ!」

孠

(始まったよ...コイツいい加減にしないかな...)」

零はいつもコイツを無視している。理由はウザイから。

勝也

「オラア」

零

「つつ!」

そしてコイツはこうやって影で暴力を振るう。 ジャ アンのように

勝也

「朱里は俺の女だ!お前なんかが近くにいるんじゃねえ!!!」

零

「(俺だって避けているんだぜ?)」

まったく.....

ニレダナラニンケンナンテ・・・・・・

 Π 「零さんっ!」

「うわっ!何だよ?」

 Π

「あぁ、アリガト。」

「仕事出してきましたよ?」

 \equiv

「どうしたんですか?ぼぅっとして?」

零「いや?なんでもないさ.....」

イマハ... 過去のハナシダシ...

まぁ俺の古い記憶って奴だ (後書き)

て口は、湯よりです。コミスはい!一応零の過去です!

次回は本編なんです。中途半端ですいません...

まぁ第四話みたいな話だ (前書き)

うた』を聴きながらでもどうぞ。 ていただけると嬉しいです。今回は『物凄い勢いでけーねが物凄い四話です。映姫様でます。口調とか違うと思います。その時は教え

23

零

「ん~・・?」

 \equiv

「どうしました?」

「いや・

なんか、

スッゴクイヤな予感がする」

 \equiv

「イヤな?・・・あ」

零

「なんだ?」

 \equiv

「(ビクゥ!?)いえ!何でもないですよ?」

現 在、 零とミコは冥界のお偉いさんに呼ばれたので出頭しているの

だが・・・

零

「 · · · · 」

 \leq

「どうしました?急に止まって?」

零

「なぁー?帰っていい?(汗ダラダラ)」

=

「なぜ「そこのアナタ!零を捕まえてください!!」はいぃ!?」

ある。 ミコは急に聞こえた声に従った。 理由は怒っている声だったからで

零

「ミコ!後生だ!離してくれ!やばいんだってぇ?!」

 \equiv 「いいですか?そのまま離さないでくださいよ!」

「ひゃい!」

その人は凄い速さで接近してきた。そして・

「ふんつ!」

零

「ぐはぁ!?」

おもいっきり飛び蹴りした。 零の顔面に

零

・・・・・(どさっ)」

零は冷たい地面に沈んだ・・・しかし!

?

「くらえっ!このこのこのっ!」

がはぁ!あ゛あ゛っ!」

まぁ第四話みたいな話だ (後書き)

映姫様うまく表現出来ない・・ 途中で終わらせてスイマセン。 ps pだとこれが限界です。

まぁ第五話みたいな話だ (前書き)

映姫様って難しいな

今回は【東方原曲】地霊殿

亜殿 「 暗闇の風穴」でも聴きながらどうぞ

まぁ第五話みたいな話だ

前回のあらすじ 零が飛び蹴りされて地に沈んだ。

 \equiv

「零さん大丈夫ですか・・?」

映姫

いてえぞ?映姫サマよ」

「なぜ蹴られたか分かりますか?」

「蹴ったときにパンツみたから?」

映姫

「パンッ!?! / 死になさい

「で?何の用だ?」

 \equiv

「零さん・ ・?この方は誰ですか?」

「閻魔サマですよ?」

 \equiv

え

映姫

映姫

「おほんっ!私がここにあなた達を呼んだわけは・

「説教するためです!」

 \equiv

「私までですかぁ?!」

「俺はいいのかよ・・・」

晔 妮

「そうです!だいたいあなた達は・ ・クドクド」

五時間後・・

映姫

「・・とゆうまでです!わかりましたか!」

零&ミコ

映姫「わかりました!」

「よろしい。」

二人は思った。(長かった・・・

映 姫

零?」

「なんだよ?」

映 姫

「・・・まだ、復讐したいんですか・・

零

•

まぁ第五話みたいな話だ (後書き)

すいません・・・pspなのでここで切れてしまいました。 ン使える時間も少ないので・・・言い訳でした。 パソコ

次回もよければ見てください!さて!映姫サマがいった零の復讐とは!?

まぁ第六話みたいな話だ (前書き)

作者は名前変えました!これからもよろしくお願いします。 今回は 零の復讐についてはまた後日にでも、今回は新しいキャラがでます! 『ねこ巫女れいむ』でも聴きながらどうぞ!

まぁ第六話みたいな話だ

 \equiv

「零さん・ ・復讐ってなんのですか?」

映姫サマと分かれた後、ミコがいった。

「また・ いつか話す。

 \equiv

っ は い・

青年&少女移動中・

?

「 零 |

「ハジメか?どうした?」

ハジメ

「帰ってきてたんならいってよ!」

「いま帰ったばかりなんだがな」

こいつはハジメ、 半人半霊の少年。 けっこう明るくて気さくな奴だ。

ハジメ

「また零は偉い人に怒られたの?」

「またってなんだ、 またって」

```
「はいはい・・・」
「はははっ、零?スマイルだよ?」
「はははっ、零?スマイルだよ?」
ではははっ、零?スマイルだよ?」
```

まぁ第六話みたいな話だ (後書き)

次回はまた新キャラだします!短くてすいません。だれか・・・感想をください・

まぁ第七話みたいな話だ (前書き)

今回は『博麗神社町内会音頭』でも聴きながらどうぞ! やっちまったぜ。新キャラはリア友が考えてくれた。 ありがとう!

35

ハジメ

「零~?シーニ知らない?」

「シーニか?俺は見てないが・ ・ミコは?」

 \equiv

「いや・・ ・そこに歩いてるじゃないですか」

零&ハジメ

「あっ!ホントだ!」

ハジメ

「シーニ~!ちょっときてー」

ハジメ

なんだ?・

「相変わらず暗いな~。もっと明るくできないの-?」

・無理だよ・

こいつはシーニ。 なんか若い頃何かあってこんなに暗くなった奴。

しかし!切れると怖い。 まじ怖い。

「じっちゃんは?」

・そーいえば、 零を呼んでたよ?

「そうか、 分かった。 ありがとな?」

・・・・・気にしないで・・・」

零

「さて、じっちゃんのとこいくぞ。

ハジメ&ミコ

「は~い!」

「餓鬼どもかよ・・・」

一同移動中・・・キングクリムゾンッ!

場所は変わって444駐屯所の武器制作所。ここには一人のじーさ なのである。 んが生息している。 じー さんは腕はいいのだが、性格や趣味がアレ

このじーさんなどの話は次回へ続く・

まぁ第七話みたいな話だ (後書き)

考えている。 新キャラ二人追加!今度は各キャラのプロフィールでも出そうかと

次回もよろしければ見てください。

できたら感想もよろしくお願いします。

まぁ第八話みたいな話だ (前書き)

ふふふ・・パソコンで投稿したいぜ・・・

今回の曲は『雪、無音、窓辺にて。 』でも聴きながらどうぞ!

```
じっちゃん
                                                                           じっちゃん
                                                                                                                                    じっちゃ
                                                                                                                                                   「あぁ。
                                                                                                                                                                                               じっちゃん
                                                                                                                                                                                                                                                         じっちゃ
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   \equiv
                                                                                                                                                                                                                                                                                        ナナナナナナナ
「せっかちな奴じゃのう・・
                                                          「あったりまえよ!この俺だぜ!」
                                                                                                                                                                                                             「うるさ・
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                「じっちゃん!いるかー?」
                                                                                       「お!俺のもかよ?早いな相変わらず」
                                                                                                                     「おう!出来とるぞ!ミコの双剣も零のトンファーもな!」
                                                                                                                                                                               「おぉ!零もいるのか?じゃあ?」
                                                                                                                                                                                                                                           「ミイイイイ コオオオオオ
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   「じいさま!ミコです!」
                            自慢はいいから早く渡せ?」
                                                                                                                                                 こいつ (ミコ) と俺の武器とりにきたんだよ」
                                                                                                                                                                                                                                                                                       ・バァン!!
・ホレ」
```

「やった!やりました!やっと私も【死神】

になれました!」

説明・ このセカイの死神は、 武器を持つとやっと一人前になれる

のだ!

ハジメ

「やったね!ミコ!」

 \equiv

「はいです!」

まぁ俺から見たらまだまだひよっこだがな?」

 \equiv

「ムッ・ いいですよ!いつか認めさせてやります!」

「はいはい、 頑張れー」

 \equiv

「さあ!帰って寝ましょう!」

ハジメ

「寝る子は育つってね?」

次回は各キャラのプロフィー ルと世界感のをだすぜ」

まぁ第八話みたいな話だ (後書き)

次回もみてください!次回の更新は遅くなるかもしれません。

まぁ俺たちのプロフィールって奴だ(前書き)

す ね w まずは零のプロフィールです。『彼岸帰航~Riverside 早くできちゃったぜ!...すいません。パソコンでの更新になります。 View』です。東方花映塚の小町のテーマです。死神つながりで

まぁ俺たちのプロフィールって奴だ

名前:零"れい"

体重~死神は体重関係ないぜ!

身長~180?

趣味~人を観察すること、 フモフすること。 人助け、 甘いものを食べること、 猫をモ

いてはまた後で) 嫌いなこと~人間の中で人を見下す奴、 仕事、 運命の神 (これにつ

能力】 能力:東方みたいにやると【ありとあらゆるものを拒絶する程度の

武器:大鎌、 トンファー、 などなど色々なものを使う

二つ名【世界を渡る死神】

ョ ン。 間には優しいが他人には厳しい。 長はランクA 力がでた。 クをEにしている。 今作の作品の主人公。元人間の死神で第444駐屯所の隊長ポジシ 死神としてのランクはEX。 SSくらい[。] 他の死神で陰で何か言っていても基本無視。 面倒くさがりなのでランクを偽りラン 過去にあったあることが原因で能 これは異常な数値で、ほかの隊 仲

容姿は左目に眼帯、 像してね! 左腕に包帯をつけている。 Dグ レのアレンを想

誰も見たことがないもの。何かの存在が感じられるようだ・・・ と手入れしていなのでまぁまぁつやがある程度。左目は未だに隊の 髪はロングにしている。髪は本当はサラサラだが、本人は面倒だ!

まぁ俺たちのプロフィールって奴だ(後書き)

ではまた。 これが零のプロフィールです。次回はミコとじっちゃんです。

まぁ俺たちのプロフィールって奴だ...二番目(前書き)

音楽は前回と同じです! くくく... みてね!

まぁ 俺たちのプロフィー ルって奴だ… 二番目

名前:ドコ

体重~えっと「 でしたー!! 何いっているんですか?フフフ.....」 ... すいません

身長~

趣味:努力すること、零に近づくこと、

嫌いなこと:ダイエット、 陰険なやつ

夢:ランクAになること

能力:無いが零捕獲時には【零を見つけ、 捕まえる程度の能力】

二つ名【零を捕獲できるヤツ】

武器:ナイフ (無限:なんで?!) 双剣

零の部下、 ランクはDの下っ端。 ちなみにじっちゃ んの孫、 ヒロイ

ン候補w

零が逃げたときの捕獲班隊長。 けっこう大変な目にあうかもしれな

名 前 ・じっちゃ ん (本名は津沢亮)

体重:74?

身長~ 1 7 0 ?

趣味~ミコを陰から見守ること

嫌いなもの~礼儀知らずな奴。武器を雑に使う奴

能力:【武器を造る程度の能力】

使う武器:ハンマー (武器を造るやつ)

チャン 零の隊の武器職人。 性格は大雑把。 しかしミコにデレデレなオジイ

能力はあまり知られていないので零の隊に捨てられた。 有能なオジイチャンw

W

まぁ俺たちのプロフィールって奴だ...二番目(後書き)

感想などや意見などありましたらどんどん送ってください。 今日はコレダケデス。すいません。 ではまた....

まぁ俺たちのセカイの説明みたいな話だ (前書き)

もしれません。どんどん追加していくっす。 小指いたいっす (笑) 今回のは題名通りです。 pspなので短いか

今回のテーマ曲は『ロックマンゼロのAwakening_wil 1』です。よかったらユーチューブなどで検索してみてください。

でわどうぞ!

まぁ俺たちのセカイの説明みたいな話だ

死神 始まりと終わりを司る神。 は神出鬼没でだれかの寿命が切れたときに現れる。 人魂を回収し、 地獄か天国に連れていく ここの作品では ものたち。 出現

天 使 · 沌となる。 えなかった魂は高確率で悪事を働き、消される。 で綺麗に洗ってまた輪廻の中に戻される。偶に失敗して、 ・死神と正反対の存在。 基本的に働かない。仕事は天界にきた人魂の掃除。 死神が悪ならば天使は善、 綺麗に洗 人は混

がいる。 転生 が出来る。 ては秘技になってはいるものだが、普通に図書館などで盗みみる事 技などを与えられて下級神の駒になる。 しかし、 死神は転生者を刈ることも仕事になっている。 下級神の悪ふざけによって故意に殺された者は、異世界の · 死 ん でしまった人を新しく輪廻の輪の中に入れること。 ١J のか?それで? しかし、 極僅かにいいやつ 転生につい

のはい 神 樣 で重要なのは、下級神よりも力が大きくて、 トが多いので秘書さんたちに見捨てられている。 ざまぁ くらでも増える。 まんますごいやつら。 実際の仕事は下界の観察の ちっぽけな人なんても W W L L

とおもっていること、 運命を捻じ曲げる。 とくに運命の神はそれが強く、 零はこいつとなにかあったようだ・・ 気まぐれで人

まぁ俺たちのセカイの説明みたいな話だ (後書き)

誤字、 このぐらいかな?編集一応終了です。これが私の作品の世界です! では。 このへんで・・・ 脱字、意見などありましたら感想にておくってください。

まぁ第九話みたいな話だ (前書き)

今回は東方地霊殿 からもよろしくおねがいします (号泣 30アクセス、258ユニーク!・・ありがとうございます!これ 今回は本編でし!初めて転生者です!そしてぶっちKILL!11 でも聞きながらどうぞ! 【封じられた妖怪 \L o s t P 1 a c e]

まぁ第九話みたいな話だ

 \equiv

```
\equiv
                                                                                                                                  \equiv
                                                                                                                                                                                                   \equiv
                                                                                                                                                                                                                                                                                    だそうですよ?」
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    \equiv
                                                                                                 ってやつだそうです。
                                                                                                                                                                                  「ほえ?」
                                                                                                                                                                                                                                                                                                  「っえーッと...あぁ、
                               「ですね!で、
                                                               「はぁぁ...めんどくさいな...」
                                                                                                                 「はい、はっきりいうと、
                                                                                                                                                 「転生者はどんな性格だ?」
                                                                                                                                                                                                                  「わかったって...めんどくさいなぁ...で?」
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   「メタ発言やめい!!...で?今日の仕事は?」
了解~」
                                                                                                                                                                                                                                                   .....パスで「だめです!」...」
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     やった!やっと私がでましたよ!」
                                場所は第3施設なので移動しますよ。
                                                                                                                                                                                                                                                                                                    また下級神がやらかしたようで、
                                                                                                                「俺はやった!テンプレキター
                                                                                                                                                                                                                                                                                                    転生者裁き
```

な奴には主に零とか零とか零とかの八つ当たりで変なものを与えら れてしまうのだw 真っ当なやつならば、 W 多少の能力を与えられて、 性格ヤヴァ 1 W W

死神2人移動中・・・・・・・

転生者サイド~

とつ報告しなければ!俺はとある神様の失敗で転生できることにな おっす!俺は ハー レム築くぜ!ヒャッホー ったぜ!羨ましかろう!はっはっははwリリカルな世界でもいって だ! ・あれ?名前なんだったっけ?でも おっとどうやら来たようだな。

死神サイド~

 \equiv

「あなたが今回転生することになった人ですか?」

転生者

 \equiv 「はい (うわぉ 「(気持ち悪い視線感じます・ !可愛い子じゃん!こいつも落とせるかな?w ・うっげぇ) 零さー ん早く来てく $\overset{\mathsf{W}}{\smile}$

零

ださいよー」

ない はいはい...こんにちはかな?君を担当する死神です。 んでどうぞ~」 よろしくし

転生者

えっと... どうも (いやな奴だな...能力もらったらこい つ消しちゃ

注意!転生者の考えていることを死神は見ることができるのだぁ

零

っでは、 しゃい きみにはいわゆる転生をしてもらいます~ ではいってらっ

転生者

「!?まってくれ!」

零

「なにかぁ?」

「転生力」 能力

「能力とかくれるんじゃないのか!?このままいけってことかよ!」

零

「わかってんじゃないか、さっさと逝け」

転生者

「ふざけんじゃねー!お前らの失敗で俺はしんだんだろ!?だった

ら「あほか?」え・・・?」

零

「失敗したのは下級神だろうが?俺らはなんにもしちゃいないよ?

なのに能力よこせだぁ?笑わせんじゃないよ。

転生者

「なんだって...?下級神?そんな馬鹿な...」

零「そんなことさじゃあいって「待ってくれよ!?」 あぁ?まだな

にか?」

転生者

「たのむ!何か能力をくれよ!お願いだ!」

零

「…仕方が無いな…」

転 生 者

それじゃあ!」

「 お 前 の タ マ シ 1 を代償にしていいならな?」

転生者

なら能力あげるよ」 「魂だよター マーシー ł 君のあっちで生きる寿命が対価だ!それ

転生者

定したいのならば払ってもらう」 わかった..寿命を削って いいから能力を... わかった...」 あぁ !あと世界も指

「で?能力は?」

転生者

F e t eのアー チャ の能力すべてで、 後世界はリリカルなのは

世界」

... かかったな?」

転生者

(カタカタ...カチィ

...できたぞ?対価の魂は...35年分だ」

「なにが?」

転生者

能力もったらお前なんて!ト スオ「遅い」

鎌で 零は転生者の魂を切り裂いた つの間にかもっていた大

お前馬鹿だな?冥界で俺たち死神に敵うわけ無いだろうが...残念

だったな?これで君の転生は無かったことになった」

転生者

「なん・・・で・・・・?

零

「素直にいってりゃよかったんだよ!...では (ニヤァ)

零はその口を三日月のようにして嗤いながら言った

零

っさ ょ う な 5 お馬鹿さん。 君は地獄で苦し んでいろ」

転生者

たんだよ愚か者め・・本当にばかなやつだ・ 「(ガタガタガタガタ)い・ いやだ • たすけ・ ・」 う・ うわぁ 遅かっ

あああああある!?!?

は そこから触手のようなものがゆっくり伸びてきて、 で地獄の門へつれていく 転生者の下に魔方陣が浮き出てな さまざまな怨霊が蠢いている地獄への入り口・ に か が召還された・ 転生者をつかん それ

零

「さようなら ŕ 苦しめ ククククク・

転生者

「あ"あ"あ"あ"あ"あ"ぁ"・・・」

バタンッ と門が閉まり門の向こうからグチュグチュと肉をこすり

つけたような音がしている・・・

かし、 そのおとはだんだんちいさくなり ・そして

とまった。

「今回の転生者もばかでしたね・・・」ミコ

「こんなものさ・・・コイツラはな」

二人の死神は、足音を響かせて、第三施設から去っていった・

まぁ第九話みたいな話だ (後書き)

意見感想などありましたら送ってください。 微妙になりました・・・うーむ・・・文才がほしいな・

それでは!

まぁ第10話みたいな話だ (前書き)

これからもよんでください! こんな稚拙な作品を読んでいただき、ありがとうございます! 1508アクセス!343ユニークでございます!!

今回は【東方原曲】風神録「厄神様の通り道 ad」でも聞きながらどうぞ! 5 D a r k R o

まぁ第10話みたいな話だ

零

「かったりいなぁ.....」

•

「そんなこと言ってないで早く仕事してくださいよぉ」

 \parallel

孠

「はいはい…」

現 在、 零たちはあの転生者を始末wした後に零の執務室に向かって

いた。

零

ああああああああ..世界滅びてしまえ...」

 \equiv

「恐ろしいこと言わないでください!まったく...」

零

「まぁやろうとすればいけるんじゃないか?【解放】すればなぁ...」

 \equiv

「解放は使用を禁止されています。 それは見過ごせませんよ?」

零

分かってるよ...お?ハジメがいる...」

零たちの視線の向こうにハジメがいる。 しかもなにかブツブツ言っているような...? なぜかウロウロしているが。

零&ミコ

·

零達は思わず固まった。 ロウロしているハジメ。 だって怖いんですもの。鬼気迫る感じでウ

3

「ハジメ?... なにやってんだ?」

į

ハジメ

-瞬 -

「なにい!?」

零

ている。 ハジメは瞬間移動したように零の目の前に現れた。 ... 若干目が逝っ

ハジメ

「零ぉ…少しいいか?…」

零

゙できれば遠慮したいかなぁ...なんて?」

零は冷や汗をかきながら言った。

ハジメ

「実はさ、人形のことなんだよ。

零

「...なんだ...そんなことか。

ハジメ

「そんなこととはなんだぁ!?」

Ę

「怖い怖い!悪かったって!」

じつはハジメは死神の中でもたった一人の人形使いなのだ!

ハジメ

「何かいい案はないか...?」

零

「そうだな...外装はお前が考えられるんだろ?」

ハジメ

「うん。そこは大丈夫。でも武装が...」

ş

ナイフ】みたいにいろいろな武装でいいんじゃないか?全距離対応 ならいいじゃないのかな?」 「 うー む... 武器は【鎌】 【 銃】 【剣】【ドリル】【素手】 | | |

ハジメ

「ほほう…なるほど………うん!ありがとう零!早速開発するZE

ı

· ダダダダダダダダ... ·

ハジメ は 走り去っていった 。

零&ミコ

「......なんなんだよ (ですか)」

なんか仕事よりも疲れた二人だった。

まぁ第10話みたいな話だ (後書き)

クオリティひっくいなぁ W W

誤字、脱字などありましたらお知らせください。これが限界。悲しいなぁ...

それでは!

・シニガミ・・・カコノ・ ・キオク・ ・ザザザ・

きます。 です! 今回はまぁつながり?になる予定です。 ちなみに今回の曲は【人間が大好きなこわれた妖怪の唄】 この曲好きなんだ! 一応更新は金曜日にしてお

69

・・・あの日、すべてが変わった。

平和な日常。 たったの一人の暇潰しで。 大切な家族。 友達。 いろいろなモノが一度で消えた。

なことだった。 そんなものは無かった。 俺 は 平和はずっと続くと思っていたんだ。 あったのは、 — 僕 俺 が変わるのに十分 でも、

そう。 壊れたアイツ。 経験も知識も、精神も弱かったんだ。 めになる。ヒトのままではアイツなんかと 虚しいだけだ。 滅ぼした | アイツ 人間 ヒト ーコレ・・ — 僕 だからコイツと契約した。でも・・・ なんて脆弱な存在だ。一つのパーツが無くなるとだ 分かっているさ。そう、それなのに止まれなかった。 に頼んだんだ・・ の目的のヤツ。 • アイツを 人が苦しむところを見るのが大好きな すために俺は・・・僕は・・・ 禁断の秘術に手を出してセカイ ・力が欲しいと・ 力だけではダメだった。 し合いが出来なかった ・・復讐なんて を

アイツだけは、 それだけは、 けど・・・アイツは・・ それでも諦めたくなかっ 嫌だった。 俺の手で・・・ た。 正義なんてどうでもいい。 ・イツカ俺と同じヤツを生み出すだろう。 仇なんかとってもみんなは喜ばな 悪でも構わない。

そうし 集まっ でもあ ていった。 て長い年月が経った。 いつ等はそんな俺でも慕ってくれた。 みんな訳ありの奴らだった。 最初は一人だった。 鬱陶しい奴らだと思 でもだんだん 俺を隊長なんて 人が

間を馬鹿にされた...ソイツラヲ シタ... た。誰にもばれずにコイツ等を守りたかった。 れた。どうでもいい。 呼んでくれた。 んな思いはしたくなかった...だから、この| カ゠チカラ゠は封印し そのときに脳裏には昔失った仲間が映った。 もうあ 役立たずといわれた。どうでもよかった。 出来損ないって言わ 仲

えた。 讐よりももっといいことがあった。守ろう..みんなを... 俺はいろいろなセカイを回った。そこでも大切な人々がいた。...復 そう思

い た。 そのときから俺は名前をつけた。今までは『名無し』 いまは違う.. って名乗って

俺は

零った

・シニガミ・ ・カコノ ・キオク・ ・ザザザ・

駄文だぁぁぁ...

誤字などありましたらご報告をよろしくお願いします。

まぁ番外編みたいな話だ (前書き)

今回の曲はロックマンゼロの『Power いです。駄文です。低クオリティです。・・・ごめんなさい。すいません・・・pc使えないのでpspで投稿でございます。 Bomb』です。 短

「作者ってさぁ、 なんで存在してんのかな?」

ハジメ

「へ?何でそんなこと?とゆうか創造主否定しないでよ。

現 在、 す。 零とハジメは三途の川に来ている。 理由は・ ・ないようで

「あれ?

ハジメ

「どうした?」

ハジメ

「小町がいない・

だと・

「いちゃダメなの?」

小町マジメ?に仕事している

これは

ハジメ

「俺たちサボリ、

「これは?」

「映姫サマに叱られるパター

ハジメ

零&ハジメ

まぁ番外編みたいな話だ (後書き)

次回はもっとしっかりと執筆しますのでご勘弁して下さい。 なにがやりたかったのか分からない・・・OTZ ではまた次回。

まぁ第11話みたいな話だ (前書き)

今回紹介する曲は東方ボーカルアレンジ『明星ロケット』です。で 短いながら更新。 赤黒サマ、感想ありがとうございます!毎回本当にうれしいです! わどうぞ! 金曜日以外の更新はpspなので短いです。

システム オー ルグリー

零

!」よぉ ん I 変な音?聞こえたなぁ お?皆さんおは「零さん

です・ この急に画面の向こうの皆さんに語りだしたのが主人公、 しってたかな? 死神の零

「いったい何時まで寝ているんですか?いま何時だとおもってるん

ですか!?」

零

「(目覚ましセットしたのが・) 9:00くらい?」

 \equiv

「 い ま 1 00分です!仕事がまた遅れてます!はやく行きますよ

.!

零

「はいよ~・・・眠いー・・・

!時間飛ばして

Ţ

「仕事はなにがあるの?」

 \equiv

「またイツモのです。.

零

「上の奴等の尻拭いかよ・・・」

認) などだが、 死神の仕事は雑用などから魂回収、 上の神の尻拭いまでやらなくてはいけないのだ!#用などから魂回収、書類仕事 (人間などの寿命の確

零

「しかたない・・・やるか・・・

 \equiv

「はい・・・

ランマ級の高さだったそうな。 その日にやった仕事を零は珍しくサボらなかった。 ちなみにチョモ

まぁ第11話みたいな話だ (後書き)

限界だ・ pcの方は金に更新 (しつこいww)

まぁ第12話みたいな話だ (前書き)

・数学のテストまさかの2点・・・悔しくなんてないんだ!(

泣

今回の曲はロックマンゼロ2の『Supreme__ Ruler』で ではどうぞ!

まぁ第12話みたいな話だ

零

「ハア・・・ハア・・・ちくしょう・・・」

- ズキッ -

E 4

「うっ 痛てっ は まったくよぉ 貧乏くじ引いち

まったな・・・」

居たぞ!あそこだ!-逃がしゃ しねえー 目標確認したー

- まったく・・・手こずらせやがって・・

零

「はっ 一人に対してありえないだろ、 この差はないな・

- ヴォン・・・ -

零の愛用の粒子の剣がその姿を現した

零

やってやるよ・ この野郎。 俺はまだ消える訳にはいけな

いんだヨォ!!」

なぜ、 こんなことになっているか、 それは時間を遡ることになる。

444番隊隊長、 零は至急暁に出頭セヨ。 繰り返す44

4番隊・・・ーー

零

「は?なんで俺なんだよ?」

 \equiv

「まったくですね。 とゆうか、 暁って・ 世界を渡る為の【ゲー

ト】の所有しているところですよね?」

ハジメ

「そうだね、でも・・・世界を渡るのって普通は四人一組だよね?」

零

•

 \equiv

「なんで零さん一人なんでしょうか?理解不能です。

ハジメ

「また難易度高いんじゃないかな?でも零のランクもあまり高くな

いはずだし・・・」

1

「まぁ気にしても仕方ないし.....いってくる」

「いってらっしゃい!」

 \equiv

ハジメ

「がんばってね!」

· 死神装備準備中 ·

零

るぜ」 「さて. これからどんなことおきるんだかな... まぁ蹴散らしてや

まぁ第12話みたいな話だ (後書き)

さい。 ごめんなさい。 感想、意見などありましたらドシドシおくってくだ すいません。二つに分けるようにします。

それでは!

・・・・キロク・・・・・ (前書き)

ください。 バレかもね!気ずく・・・かな?いやな人はこのページから逃げてすいませんでした!番外編です。なんか思いついたので・・・ねた

「あ゛あ゛あ゛あ゛!」

「ちっ、また失敗か・・」

覗いていた。それを見ているのは人間ではないナニか。 ソイ ツの体は様々なコードが伸びて くべ 所々に機械 のパ

「あぁ、また失敗したのか?」

「ちっ!この出来損ないめ・・・」

しかたないさ。 少し休憩してもう一回やろう。

そういっ てナニかはどこかにいった。残されたのは実験体の

畜生・・・何時まで耐えればいいんだ?・ •

々な傷が付いており、 実験体はまだ幼い少年だった。しかし、その体の至るところに様 修羅場を通ったことが分かる。

「はぁ・・・がふっ・」

ビチャッと少年は血を吐いた。

くそっ下級神め・・ ・まだ足りないのか?こんだけヒ

してくれたくせによ」

「まだヤルに決まっているだろうが、失敗作」

どうやら下級神が帰ってきたようだ。

まだ抵抗するのか?頑張るなオマエ」

まったくだ。それよりアレは持ってきたか?」

当たり前だ。 しかしコイツもハズレじゃないのか?いままでのヤ

ツ等は駄目になったじゃないか。

くくくっ、 あまり期待してないから良い んだよ。 さて始めるぞ。

実験はまだ続く様だ・・・

金曜日以外は番外編やろうと思う。

・・・キロク・・・ニバンメ・・・

ジジッ・・・ヂッ・・・

実験体の少年は何時も痛みしか感じていない。 否 痛みしかない。

• • • • •

それでも何も言わない。言っても無駄だからだ。

「ははっ。自由って何だっけ・・・」

の人間だったら精神が死ぬ。 て身動きできない。ソコは光さえも無い。 少年は元人間だった。しかし、いまは機械の体。 だが ただ真つ暗な場所。 コードに繋がれ 普通

「アイツを殺すまで・・・俺は・・・」

少年は復讐の為に死ねない。いつまでも。

·サァサァ、今日も始めようかね、贋作く、

どうやら研究者が来たようだ。

•

ダンマリか。マァいいでしょう。 今日は脚の制作ですね

研究者はうれしそうに喋る。 彼は狂っている。 人間が死ぬのが大

好きなのだから。

「反吐がでるな。クズ野郎」

研究者は少し言葉を切ってから言う。誉め言葉ですね。しかしー・・・」

君は言葉使いが悪くなったねぇ。 最初のうちは泣き叫んだり敬語

だったのに。」

「よけいなお世話だ。

少年はそう吐き捨てる

クヒャハッハッハ。 マア さ サア始めようカ。

今日も実験が始まった。

妄想止まらない

まぁ第13話みたいな話だ。 (前書き)

に分けるやもしれません。もうしわけない。 ふははははは!まさかの本編です。 もしかしたら二つではなく四つ

な人はお知らせください。 ps書き方変えます。 名前をなくそうと思いますが、「いやだ!」

ではどうぞ

零が行った後の444番隊ー

「やっぱりおかしい・・・」

そうハジメが言ったのをミコは聞いた。

ハジメさん?だって命令じゃしかたないじゃないですか」

だとしても、少なくとも零は拒否出来たはず・ なんで?

_

ハジメは不思議そうに言った。するとミコが

っていってます。私達に仕事を押しつけさせている神(クソ野郎) 零さんは『素直に言うこと聞いておいておけば、 後で役にたつ。 **6**

は戦闘をしなくなります。すると?」

「なるほど・・・そうゆうことか!いくら神のヤツ等でも衰える、 ハジメはなるほど!とポンと手を打った。

「だから零さんはいつも安請け合いしているんですよ。 分かりまし

た?」

「うん。分かった。_

「ならいいですよ。」

ではなく444番隊の全員が零を信頼しているのだ。 なんだかんだでミコは、 零のことを信頼しているのだ。 ミコだけ ・自分達

に救いの手を差し伸べてくれた唯一の死神に。

「でもさ、新しく此処にくる代わりのってのが気になるよね ?

はい・・ ・此処はゴミ溜まりと言われて嫌われていますし・

やはり何か裏が?」

そうミコとハジメは思った。 しかし

. まあ問題は無いでしょう」

そう考えた。

まぁ第14話みたいな話だ。 (前書き)

ずっと俺のターン!・ ・嘘です。今回は零サイドです

よぁ第14話みたいな話だ。

暁本部 零は命令通りに出頭したが、 周りの雰囲気が気にな

った。

「 罠・・か (ボソッ) 」

零の直感はよく当たる。 それも80%程度の確率で。

「はぁ~。 めんどくせぇ・・・」

「遅れてすみませんね」

しばらく経つとようやく役員がやってきた。 胡散臭い笑顔ととも

に

「あぁ、 どうも。 (うっ わ し。 罠だこれ、 てかこんなに胡散臭いの

初めてだよ。あ゛-帰りたい・・・)」

そんな零に対して

あ!挨拶忘れていましたね。私は『ロルド・シン』とゆう者です。

95

(能力発動・・・他者からの干渉を【拒絶】する

これは頭覗

零は能力によって暁の能力者の能力などを拒絶した。

かれて模写されるのがイヤだからである。

では・・・消えていただきましょうか!」

いきなりロルドは短剣を突き出してきた。

それを零は

なめるな若造。」

避けてロルドに右フックを仕掛ける。しかし、

「よめていますよ!」

懐から何かの物体を出し、零の攻撃を避ける。

「 いってー。 なんか堅かったし・・・」

どうやら痛かったらしい零。

さすがは44 4番隊隊長ですね まったく隙がないです

まぁ第14話みたいな話だ。 (後書き)

途中半端すいません。 また次回です。・・

まぁ第15話みたな話だ。 (前書き)

ではどうぞ! まだだ...まだおわってない...俺はまだ...みたいな感じですw

まぁ第15話みたな話だ。

いですよ?それなのにあなたは...神に逆らってさらに復讐ですか...」 ロルドはそういってヤレヤレ、と首を振った。 知っていますか?死神は神の元で働く農夫のようなものらし

やねえか。 別にいいんじゃないか?だってあいつらの仕事やってやってんじ 感謝されるはずだろう?」

たが、 それに面倒くさそうに返事をする零。 両者は短剣を持っている。普通ではない光景だった。 普通に見ていたら雑談だっ

.. 普通に負けるでしょう?」 本当にEランクの【落ちこぼれ】なんですか?私のランクはBです。 「まったく...最初の一撃で消えてくれればよかったのに...あなたは

さい...あとランクはEですよ~」 馬鹿だな。 簡単に死んでどうするんだよ?死ぬのヤダよ?面倒く

ロルドはなにかの構えをしている...一見有利なのはロルドのほうだ 両者は軽口を叩きながら相手の隙をうかがう。 ロルドは L かし零は自然体

ざと隙を作っている...こいつランク偽ってんだろ!?) と、考えており、 (本当にコレはEランクなのか!?隙なんて無いじゃないか... 零は わ

゙(あ゛ぁ゛面倒くさい...帰っていいかな?)」

と考えていた。

ロルド...だったっけ?俺を呼んだのはこのためなのか?」

はロルドにそう聞いた。 いい加減に面倒くさくではなくなって、 それに対しロルドは イライラし始めてい た零

癒のナイフは高かったんですよ?」「一応は、このために装備をそろえ このために装備をそろえたんですよ?このナイフ... 不允治

分かっちまうけど...」 「知ったことではねえよ。 ってか教えてもいい のか?対処法すぐに

そのときに、零は気づいた。

零の経験からくる警告でもあった。 込んだ零は失敗を犯す。 かすかに零の真下の地面が揺れているような気がしたのだ。 (何だ...?地面に何かある?...) しかしそれを気のせいだと思い

っはっはは!」 たらどうだ?」 「あぁ、失敬。 ?ナニ言ってんだ?お前ぶつぶつといってないではっきりと言っ つ くっくっくっくっくっく。 あっはっはっはっは

零は急に笑い出したロルドお訝しげに見た。 そして

ぐのだからな!せいぜい私の手駒になってもらうだけさ。 行ってもらうよ!なに、心配することはない君の部隊は私が引き継 っはーっはっはっはは!!サヨウナラ!零君!きみには異世界に なんだ?こないならこっちから「 - チ..... チチチ - 」

置 ドはただ待っていたわけではなかった。 の間合いを計算しながら零を暁の真上に追い込んで、 零との距離.. 転送装

異世界に飛ばす...その刻をただじっと待っていたのだ...

いいことを教えてあげようか? 「どうしたぁ?零くーん?・ 様だよ!!」 悔しくて言葉が出ないかい?あぁ、 この計画を考えたのは運命の

このとき、 な神のことを言ったことだ。 ものをワザワザ黒幕を教えたこと。 ロルドは失敗を犯した。 そして・・ すぐに零を転送すればよかった ・零の大嫌い(・)

・・え・・さな・・」

なんですか?はっきり言ってくださらないと聞こえませんよ?く つ!?」

そのときの零の目は...なにも写していない。

った。 「 お 前、 逃がさない... いずれ追い詰めてアイツのことを吐かせてや

そういって零の体は冥界から消えた。

ガラス球のような目だ

まぁ第15話みたな話だ。 (後書き)

うん...なにしたかったのかな?

次回の更新はいつかな?分かりませんが、 応援していただくと更新

スピードが少し上がります。

では!

まぁ第16話みたいな話だ。 (前書き)

っと泣けま きたよ!約350 したw W 0アクセス!本当にありがとうございます!ちょ

v i e | ブでコピペすればでると思いますが・ 今回、ひさしぶりの曲紹介は『Ro lection E _ RESONANCE』です。 e r l i n g R e m a s t Life) e r e d c k m а R e s 長い・・・ユーチュー 'n ا Z CANNON_ o n O n a n t C 0 1 В

では長くなりましたがどうぞ!

まぁ第16話みたいな話だ。

ドクンッ ドクンッ、 心臓が動く音が聞こえる・ ・生きて

いる・!?

「ぶはぁ!?」

零は飛び起きた。 てっきり消滅したと思っていたからだ。

?生きてる?アイツミスったのかな?まぁい いやし

を失っていたようだ。 零は大きく体を伸ばした。 零は軽くストレッチをして体を柔らかくする。 全身からバキバキ音が鳴る。 長い間気

は・ んな場所なんだか・・ーん?・ 「さて・ ・魂の声?が聞こえる・ ・どうやって冥界に戻ろうか?このセカ 火薬と人の焼ける臭い・ イはいっ たいど あと

零は体を自然体にして目を閉じた。 そして

『術式、探索』

えず動いており、 左目の眼帯をとった。 何かを探している様だった。 そこには何かの眼があった。 その眼は絶

と 1 0 0 ふむ・ 0 かなり近くで殺しあいしてんのかね?人数は くらいか。 ざっ

零はそれだけ調べると左目に眼帯を付け直した。

!?」・・なんでさ・・」 「面倒臭いなー。 ・放置とゆうことで!「だれかいるのですか

零が後ろに振り向くとそこにはおびえる女達がいた・・

まぁ第16話みたいな話だ。 (後書き)

ここまでで切ります。漢字変換できないpsp・ なんでさ・

o r z

ここで説明・・

" 零の左目"いつもは眼帯で隠しているが、 主に探知、 防 御、 洗脳

などいろいろできる万能な眼。

です。はい。 Dグレのアレンの改良版みたいな感じです。

ではまた!

まぁ第17話みたいな話だ。 (前書き)

れしいです。 り短いですが・・意見などありましたら感想にて送ってくれるとう みなさん。この小説、もっと長くしてほしいとか思いますか?やは

曲紹介はロックマンゼロ4の『Falling_ Down_ Rem i ×』です。

では本編をどうぞ

まぁ第17話みたいな話だ。

面倒くさいな・ 零はとても困っ ていた。 はぁ まさか人間の接近に気付けないとは・ . ح

いたらなおさらである しかも、 接近してきた女達の中に、 いかにも王女!の服装の女が

そこの奴!何者だ!?まさか姫の命を・

(えー?なに?また面倒事ですか?勘弁してくれよ・

に面倒事である 女達の中から、 紅い鎧を装着した奴が出てきて、この発言。 確実

「アリア・・・」

心配ありません、 私がこんな奴ごとき始末してやります。

どうやら紅い鎧の女はアリアとゆう名前のようだ。

興味ないだと!?」なんて言えばいいんだよ!?おい!」 「えっとですね、 確かに怪しいですが、 俺は王女なんて興味ない「

もはや聞く耳持たずなアリア?。 零はしかたなく武器を構える

「"召還"無名刀」

だしたのはただの剣、 しかし地獄で無名でも、 人間には凄い剣。

アリア・カミカゼ、 4 エスペラ国、王女親衛隊隊長!貴様は?」

神の名を語るか・・!まぁいい、勝負しろ!」 ・・零、死神だ」

「拒否権は?「あるわけ無い!」デスヨネー・・」

零は深くため息をはいた・・・

まぁ第17話みたいな話だ。 (後書き)

次回、戦闘シーン、不安になる。

ではまた次回!

まぁ第18話みたいな話だ。 (前書き)

ではどー ぞ! 赤黒様、感想ありがとうございました! やっぱり短い。ごめんなさい・・・

まぁ第18話みたいな話だ。

・キィン!キィン!・

零とアリアはお互いの武器で何度も打ち合い、 合っていた。 もう30合以上打ち

「このっ!いい加減死ねっ!」

アリアはパワー 重視の剣士のようで、 親衛隊の名に恥じぬ戦いをして

· うわっ!?あぶねぇ?!」

零は逃げていた。 理由は面倒だったとの事。

逃げるな不審者!正々堂々と戦え!」

[゛]うぇあ?!危ないだろうが!殺す気か?!」

「当たり前だ!」

た。 なんともバカな会話だが、 もっとも零は避けているだけだが。 両者の動きは流れるような動きをしてい

「こうなったら・ 火の精霊よ、 我に力を与え給え。

ムソード!」

「は?!魔法存在してんのかよ!?」

アリアは" 魔 法_" を使い自分の獲物に炎を纏わせ零を襲う

゙ちっ!面倒な世界だな!?」

- ボゥ ! -

「ボゥ?なんか焦げ臭い・・!?っておいぃぃ!」

零の愛用しているコートに着火、見事に焦げる。

「はっはっは!見たか!私は炎使いなんだ!諦めて頭を垂れろ!」

アリアは自分が勝ったと思い、高笑い。これはいけない判断だった。

まさに命取りだった。・・・死神だけに

まぁ第19話みたいなはなしだ。 (前書き)

ではどうぞ!って忘れそうになった。 あっぶない... やぁぁぁってやるぜぇ!と意気込んでた俺。 でもパタポン3にはま

よぁ第19話みたいなはなしだ。

変わったからだ。 する気配に変わる。 アリアは困惑していた。 いつが着ていたコー 最初はやる気のかけらも感じない奴だったが、 | (黒色) に着火してからはすさまじい悪寒が 目の前の不審者?の出す雰囲気ががらりと そ

「...(何なんだ?!こいつ...)」「ふふふ...俺のコートが...あっはっはっは...」

が恐ろしかった。 零はバッっと顔を上げた。 ... 零の表情は無表情、 しかしその無表情

お前...ボコボコにしてやんよ」

! ?

標を探すために周囲を見回した。 そう言った零の動きは速かった。 くなっていいるほどに、 しかしアリアの行動も速かった。 瞬きしたら、 もう目の前からい 即座に目 な

s i d e零

アイツだけは... いやだから三分の二くらいにボコる。 お気に入りだったんだぞ!?それを燃やすとか...殺 そのためには...

sideアリア

なんだってんだ!?アイツもしかして強い?...どうしよう、

もしか

られるう!?でも、 したら不審者とか刺客とかじゃないのかな? さっさと殺っちゃえばばれないよね?. ヤ : バ

Sideアウトシマシタ

審者 (零) は見つからない...だけど 下がるような感覚。 アリアの心のなかで結論が出たときにそれはおこった。 アリアは不思議におもって周りを見回すが...不 急に気温が

後悔しやがれ!コー トの怨みだああああああ

をつけていた。 では飛べなかっ とゆう声で零の場所に気がついた。 たようだった。 だから背中に羽(おっちゃ ... 零はただいま空中。 ん作成) この世界

目を覚ませグリモア、 3 P 第三行目、 対象の動きを封じよ

「え?!」

零がグリモアを使ってアリアを拘束この間わずか1秒、 アはびっくり (当たり前)零は黒い笑みを浮かべながらアリアに近 そしてアリ

くっ くっ くっ ... えっと... ごめ くっくっ くくっ くくっ んなさい」

零がすごくこわいわらいをしながら近づくと、 それに対し いまさら謝るアリア。

「ふふ、だーめ」

めちゃ 笑い死ぬところだったとゆう。 くちゃご機嫌な零。 このあと、 アリアは全身をくすぐられて

「 うー...酷い目にあった...」

「なめんなよお前」

しばらくしてなんか和解した零とアリア。 ナニがあったかは内緒だ。

·ってかさアリアー?」

ん~?なに?」

「姫様だっけ?放置でいいのか?」

・・・・・・・・・・・ (滝汗」

申し訳ありませんでした!!!

まったく・ いつ帰ってくるかと思いましたよ?」

れるアリア 土下座して謝るアリアとプンプンおこる姫らしき人。 やっぱり怒ら

すみませんね。 零さんにはご迷惑をかけてしまって...」

「本当ですよね。迷惑なことですよ」

発見、 姫様はどうやらただいま戦争中の国の姫で、 アリア突撃したらしい。 逃げている最中に零を

・とゆうか逃げなくていいのか?お嬢さん」

「あはは、しばらくゆっくりしていたいので...だめですか?」

「だめとは言ってない」

かいくすぐってやろうか?」ごめんなさい」 恐れ多くも姫様にそんな口を... フレイムソードで「もういっ

続かなかった。 けっこうゆったりしていたみなさん。 しかし、 そんなことが長くは

まぁ第19話みたいなはなしだ。 (後書き)

ソニーはいつになったら直すのかな?はやくパタポン3で通信した 終わらなかったorz次回で回想を終わらせます。絶対に。 いぜ!とかおもってます。

ではまた次回で!

いやぁ...回想おわんね。でもがんばる

まぁ第20話みたいな話だ。

夜 ナニカの気配で零は瞬時に身構えた。

: おい、 アリア...」

むにゃむにゃ...にゃー?」

つ なんだ?この可愛い生き物?」な零だが、 今回はそうもいかなか

起こしてきてくれ.....敵さんの到着だ」 「おまえさん...可愛いが今回は緊急事態だ。 姫さんとメイドさん達

わかった///」

「なんでアリアは顔赤くなってたんだかな?」

アリアは少し顔を赤くさせながら姫やメイド部隊を起こしにいった

コイツにももちろん鈍感はデフォである

死神準備中 -

零!姫様やメイド達を起こしてきたぞ!」

「よくやった! で姫サマよ?どうするんだ?敵は準備万端のよう

だぜ?」

.....私のせいで、皆さんが...」

じて従ってきたんだ。 姫サマよ?それはアリア達に失礼な事だ。 ソイツらはアンタを信

!?そうでしたね...みんな...こんな私でも付いてきてくれます

か : ?

「もちろんですよ!姫様!!」

- 姫様.. 私達は誠心誠意お守りいたします! -- あんなにご立派

我らメイド隊、姫様の晴れ姿を見るまでは死ねませんね・・・さてになられて...・・・零殿...零殿であれば姫様を...・・・ふふふっ、

.. 敵を排除しますかね・

零達の反撃まであとわずか...

すみません。明日に投稿できたら回想を終わらせます。 たぶん

まぁ第21話みたいな話だ。 (前書き)

畜生めぇ!と某総統閣下みたく叫んでた。すみません 書いて...消えて...書いて...消えて...書い (ry

総合PV5000突破Qありがとうございます!こんな駄作駄文を

見てくださっている皆様!本当にありがとうございます!!

まぁ第21話みたいな話だ。

た。 死神は目を瞑り静かに佇んでいた。 故に恐れもしない。 そう、 1対何千人の状況でも... 死神は長い時の中に存在してい

「姫サマよ、どうするんだい?」

死神は姫に問う。

現在の状況は周りを完全に囲まれており、 な主の周りを完璧に囲っている。 しかし、 いるだけ...逆に身動きできない状態だった。 この状況ではただ囲って アリアやメイド達は大切

?姫サマは...」 おい零!なにを言っているんだ!?姫様を不安にさせたい このままだとどうなるんだかな...俺は殺され、 アリアたちは奴隷 のか?」

だって本当の事だろうよ?おそらくそうなるな。

零ははっきり言ってどうでもよかった。 だって他人だし。

`私は...どうすればいいのでしょうか?...」

' 姫様?」

ければこんなことにはならなかったんじゃあ無いでしょうか?私は 私は逃げろといわれてここまで逃げてきました。 いったいどんな選択をすればよかったのでしょう...」 けれど、 逃げな

姫は俯 たのか?そんな思いで頭はいっぱいだった。 いてそう言った。 自分の選択は正しかっ たのか?間違っ てい

に ... ふーむ、そんなこと、 後で決めな。 お前さんはまだ若いだろう

「ここで死ぬのだったら後では決められません...」

うしたい?」 「あー...面倒だな...じゃあこちらからも聞こうか。 アンタはいまど

「え?」

「ここで皆仲良く死ぬか、 生きるか、 どっちだ?」

そう零は言った。 んだー」的なことを言いそうだったから、 なんか途中から「自分なんていなくてもよかった

「私…は…」

国の住民たちは生きたくても死んでいった人達がいた。 姫は迷っていた。 本当はもっと生きたかった。 き残ってもいいのか?と、思っていた けれど、 そして 自分だけ生 逃げてきた

゙ あぁあぁあぁ...そこで迷うかよ... 」

そう言って零は立ち上がった。 自分の荷物を持って

零?どこへ行く気だ?」

アリアは不振に思い、零に聞いた

どこって...逃げるんだよ。 なっ!?この状況で一人だけ逃げる気なのか?!」 当たり前じゃないか」

いだろう?俺の勝手なんだし。 じゃあ皆さんサヨウナラー

そういって零はスタスタ歩いて行ってしまった。

零樣:」

.. 薄情者め... 」 姫!あんなやつもうほっときましょう! 自分だけ逃げるなんて

Side零

ぁいい。姫サマはおそらく迷ってる。 なんで俺サイドなんだよ?!あ?主人公だから?舐めやがって... ま こうかな な状態だったら逃げられないだろうな... はぁ面倒だな... さーて... 行 ってか当たり前か、まぁあん

やってきましたぁ!敵さんどんどん湧いて来る。 うわぉ気色悪い。

目の前に広がるのは装備を整え、 て接近してくる人間たち。 まぁたくさん。 杖 剣などなど各々の獲物をもつ 何千、 といる

絶景かな絶景かなwww」

かし態度がかけらも変わらない零。 めちゃくちゃふざけている。

ている 人間達との距離は結構離れている。 大体十?くらい?零は左目で見

さーってと...ただいまより戦闘を開始いたしマース...くくくっ」

そういって零はそこからいなくなった。 sideアウト

Side兵士長

我々はいま、戦争の相手の国の姫を捕獲しにきた者だ。 たような?... 気のせい... か?... あるアリアとやらはかなりの強豪であり、何千もの兵を引き連れて いる。これだけいればあの【火焔の舞姫】でも...?いまなにかがい 姫の護衛で

りな」がっ...」 いまのはやはり気のs′気のせいではないけど...くそばれるんだ やっぱり」なっ!?貴様!敵だ!敵がいる「うるさいぞー、 黙

その男の姿を捉えることができずに私の意識は消えた... S

1 d eアウト

side姫

-...・や・・・て・・・だぁ-

「どうしました?アリア」「ん?」

んが 敵のほうが騒がしいような...?よく聞き取れないから分かりませ

「そういわれると...確かに」

た て・ 死に ない <u></u>あ <u>あ</u>"

•

「 今のは... 悲鳴?!」

......ドオオオオオオオン

「爆発音!?なにが起こって?」

「見に行きましょう!アリアとメイドさんたち!ついてきたくださ

し !

「あつ!?姫様?!

アウト 私の頭になぜか一人の男性の顔が浮かんでいました... s i d e

爆発音のした所付近に到着した姫達は、 その光景に息を呑んだ。

獄絵図のような光景だっ そこにアッ タのは、 肉片や血液、 た。 頭の無くなった人の体..まさに地

これは...「た・・て」!?生きている人が!」

兵士だった。 姫は声がした所にいくと、 そこにいたのは息も絶え絶えな敵の国の

アリア、 姫様!危険です!罠かもしれません!はやくさがっ だいじょうぶ!それよりこの人に話をきかなくちゃ て!

姫は兵士のそばに行き、こえをかけた

「ここでなにが?いったい誰が?」

に ・ が ・ み

兵士は最後にシニガミと言った。 そして言った直後に事切れた。

「死神?...まさか零様?」

まさか、 零は逃げたんですよ?そんなアイ ツが・

アリア?もう少し奥までいきましょう。.

姫はけっこう行動派だった。

はぁ...わかりました。

アリアも渋々付いていく。 諦めた様な顔をしながら。

- 姫&アリア移動中・・・

姫たちは奥へ奥へと進んでいく、 たが、 全員死んでいた。 その途中に敵の国の兵士がいたり

・・・・ヒュンヒュンヒュヒュン・・・・

「姫様、私から離れないでくださいね?」「この音..魔法の球?この先にいるんだ...」

アリアが戦闘を歩き、警戒しながら進む。 そして近づくと

化 け ・ だから死神だっての。 ・者め・ じゃあ・ ・サヨウナラッ!」

・・・・・ゴトッ・・・・

リアじゃあないですか、 疲れた疲れた... はぁ面倒だった...ってありゃ?姫サマとア ヨウコソーw」

Ĺ 漆黒の鎌の刃の部分を真っ赤に染め、 左目を赤く光らせながら嗤っている零がいた... 全身に誰かの血液が大量に付

まぁ第21話みたいな話だ。 (後書き)

すいません。 疲れたぁ!?回想は...おわりです。回想のやつらは飛ばしました。

次回に書くかもしれませんが・・・まぁいいや。

誤字、脱字などありましたら知らせてください。直します。

ではまた次回!

トロク......サンバンメ.....(前書き)

どうでもいいですね。今回はキロクです。本編ではありません。 うと、風呂入れなくなりそう (泣 プレイなどを悲鳴を上げながら見ています... なにをいいたいかとゆ 突然ですが、私はホラーが苦手です。 のくせにホラーゲームの実況

キロク......サンバンメ.....

・ ヂヂヂッ バチィッ !!!・

「フノつ!まこも女が「ーツ!?」

クソっ!また失敗か...」

暗い空間で何度も繰り返されたコト。 入らないと引きちぎられる。 体のパーツを組み替え、 気に

「これで5 (・) 0 (・) 回目...やっぱりお前は役立たずか?あ、 ?!

そう言って動けない少年を蹴りつける男。

「がつ!?」

少年は呻く。 機械の体でもまだ痛覚を感じるからだ。

はつ...そんなこと知ったことか...痛えから蹴るのやめろ馬鹿野郎」

男は忌々しげに少年を睨みつける

ろを向き、どこかに去っていく。 なにかを言おうとしたが、 突然鳴り響いた警報を聞くとクルっと後

シュゥゥゥゥン...

と、違う棟に移動していった。残された少年は

「くくくっ、慌てちゃってまぁ。そんなに怖いならこんなことやる

なよ...いてぇ」

そこで記録が終わった.....

キロク......サンバンメ.....(後書き)

本編...がんばります。

ではまた次回。

まぁ第22話みたいな話だ。 (前書き)

... なんでこんなに調子いいんだろう...もうすぐ (明日) はテストな のにww

います。 書きたい!って思います。 おそらく私は馬鹿なのでやっちゃうと思 まぁそんなことはどうでもいいですが、なんか東方オンリー の小説

ではどうぞ!

「零...樣?」

姫は怖かった。

ちょっと前は少し強いだけの男だった零のことが。

まるで子供をあやすように話しかけてきた零が。 たった一人で逃

げた、と思っていた零が。

ん~ なにかな?」

目の前の男は危険だ。 それは分かるが足がすくんで動けない。

ニゲロニゲロニゲロニゲロニゲロニゲロニゲロ -ニゲロ、 二ゲロ、二ゲロ、二ゲロ、二ゲロ、 ニゲロニゲロニゲロ 逃げなきや!

らも姫を守ろうと自身の獲物に手をかけている。 そう思っても全然動かない。 横を見るとアリアが冷や汗をかきなが

姫様..お下がりください。 くっくっく... 危険ねぇ...」 零は...アイツは危険だ。

零は左目を怪しく光らせながら嗤う

ったく、 さっきまではただの男、 いい迷惑だな」 いまは不審者ならぬ危険人物ってか?ま

そう言いつつも零は微笑む。 どこまでも邪悪に

くはっ、 くははっ アハハハハハハハハハッ

零は嗤う、 なによりも楽しそうに、 どこまでも愉快そうに

ツ 八 アハハハッ!オソロシイカ?!ニンゲ~ン?アッハッハッハッハ

だが、 零は壊れている。 零は何百万人も何千人も 死神は魂を運ぶ、 シタ。 本当は殺したりはしていない。 上司の命令などで。

命乞いをする人、 んな人でも殺した。 年老いた人、子供をおなかに宿した人、 子供、 تع

逆らおうにも体が動かない。 たのが己の左目にいる奴に意識を明け渡すことだった。 したくなかった。 しかし命令は絶対の命令を持っている。 しかし零はやりたくない。 そこで考え

オマエは誰だ?」 : お前、 零か?アイツはこんなに禍々しい魔力はしていなかった。

すると、 魔力がまるで意思を持っているかのように体を覆い始めた。 零の体から絶えず放出されていた禍々しい魔力は収まり、

グニャグニャ、グチューゴキィ・

何処までも黒く、 しばらくすると、 禍々し 魔力は動かなくなり、 い鎧に まるで鎧のようになった。

...我は 。破壊神なり!」

そういってオメガはアリアに接近して攻撃...するかと思われた。

が。

「ウゴワァ!?」

突如として現れた全身をコートで覆い隠した誰かに蹴り飛ばされた。

・・・・・(呆然)」

・・・・・(吃驚)」

あまりの出来事に固まって唖然とする姫とアリア。

するとコートの誰かが口を開き、

馬鹿兄貴!なにやってんだぁ!!!」

と発言。するとまた

・・・・・(オロオロ)」

・・・・・(現実逃避).

オロオロし始める姫と現実逃避を始めるアリア。 についていけなかった。 二人ともこの状態

そんな二人を尻目に零を兄貴とよんだ奴は

あぁぁ!!!!!」 「このっ!なんでっ!!こんなところにっ いるんだぁぁあ

「グベッ!?グフッ!?ガハァ!?

一方的な暴力が行われていた

アリアは思った。

『なに?このカオス』

لح

まぁ第22話みたいな話だ。 (後書き)

大丈夫!俺も思った。 反省もしているし後悔もしております。 ふははぁ!?シリアスできなかった。新キャラもだしました。 「え?!なんだこの展開!?!?!」 って方が多いと思います。

まぁ第23話みたいな話だ。 (前書き)

どうしようww数学またヤバイ...orzテストオワタヽ (^o^) /

そんなどうでもいいのはほおって置いて、 なんか最近調子イイね!

皆様のおかげです。

では23話をどうぞ!

さて...前回のあらすじ!

「我は …破壊神なり!」零の秘密が…

だが!

「ゴハア!?」

「馬鹿兄貴イイイイイイイイイ!!」

秒殺。

- 作者執筆中

どうもすみません。兄が迷惑をかけました。」

姫とアリアの目の前には、 を血に染めたコートの人? ナニカ (零)をボッコボコにしてその手

零は死んでしまったよう・ ってえ!?」 「早く起きろ馬鹿兄貴(ゴスッ」 「 痛

姫とアリアは状況を整理しきれていなかった。 すると、

名前を言ってなかったな。私はカイラだ。

美しい髪の毛をもち、透き通るような白い肌の女の子がいた。 と言ってコートの人はフードを外した。そこには紅色の目、 銀色の

「...女の子だったんですか」

アリアはそういったが、 姫は美しさに声が出なかった...

「おいカイラ、 オマエあの魔道具外せ。 姫サマが喋れなくなってる

ぞ

「あ、本当だ。いま外す」

姫はどうやら声が出なかっ たのではなかったようだ

「今のは?」

今のは魔道具【不声の鈴】 の効果だな。 効果はまんま魔力耐性の

低い奴の声を封じるものだ」

姫が聞くと零が答える

姫は納得したようだが、 アリアは不満気だ。

具のランクは一体なんだ?」 「おい零、姫様はこの国では対魔力はAランク相当だぞ?その魔道

「これはSSランク」

アリアはその答えに青ざめる。

作るならば徹底的にってことだ (キリッ」 そんなの防げるわけ無いじゃないか!!」

しかも零が作ったのか!?」

さっきまでの空気が吹っ飛んでいた皆だった

まぁ第23話みたいな話だ。 (後書き)

カイラのステータスも近々出す予定であります。 今回の話はカイラの説明会でしたので。 こんかいは短めです (何時もじゃないか?)

ではまた次回。

まぁ第24話みたいな話だ。 (前書き)

ではどうぞ! 用意はいいですか...? さあやってきました駄文ワールド!!

まぁ第24話みたいな話だ。

零達は楽しくワイワイと話していた。 しかし、 しばらくすると

っていたけど」 ん~?じゃあ零は本当に死神なのか?初めて会ったときにそう言

とアリアが聞いてきた

「あぁ ちこいや」ぶげら!?」 ?信じてなかったのか?俺h「おい馬鹿兄貴、 ちょっとこっ

た。 答えようとした零にカイラは首を絞めながら遠くに引きずっていっ

かったっけな?」 「馬鹿兄貴、 たしか冥界では死神と身分を明かすことは駄目じゃな

といい笑顔(額に青筋)のカイラ

え?そうだったっけ?知らね」

即答する零

?こんどはなにをされるか分からないぞ!?」 馬鹿!決まっているんだ!これ以上兄貴がなにかやらかしてみな

「まぁいいじゃないか。俺頑丈だし」

カイラは実は優しい娘。 兄である零の身を案じての行動だった。 L

かし零はいつもと同じマイペース。

「大丈夫だよ。俺は【死なない】んだから...」

゙それでも...私は兄貴が心配だよ...」

零とカイラはしばらく黙ったままだった... もちろんアリアや姫のこ とは忘れていました。

すまない姫サマ、 すっかり忘れてた。 アリアも」

「すみません...」

い…いえいえ、お気になさらず」

「私はおまけ!?」

姫は優しく笑っているが、 少したって、姫たちの存在を思い出した零たち。 アリアは忘れられていたことに怒っていた

教えてくれないか?」 名前って何ていうんだ?姫サマってずっと言うのは面倒だからさ、 「まぁアリアは放って置いて「置いとくな!!」 姫サマ?あんたの

カイラがアリアをなだめているのをスルー して零が聞いた

皇女、 あぁ ノワー ... すみません。 ルです。 零樣」 まだでしたね。 おほんっ 私はエスペラ国

ノワールね。了解」

さて... 忘れてはいないだろうか、 現在の零たちがいる所を。

「!?つ兄貴!」

「え...?えぇ!?」

零が殺した兵がいっぱいいる森の中である。

「死体がっ、動いている?」

やばいっ!姫様、こちらへ」

. はっはい!」

えー?アンデッド?面倒くせー」

上からカイラ、アリア、 ノワー 零である。 大体わかるかな?

「もう魔の時間帯になったのか...」

魔の時間帯?なんだそれは?」

た証拠だ。 「魔の時間帯とはだいたい夜にでるんだ。 本来ならば死体は聖水などで浄化するんだが...」 死体が動くのは魔になっ

そう言ってアリアは自分のポー チの中を見る

いまは手持ちに無いんだ…炎などで塵にするか細切れにしないと

アリアは焦っている。零は

なんでそんなに危険なんだかな?なんか弱そうじゃないか?」

そうな見た目だった。 と言った。 確かにアンデッドはふらふらと安定しておらず、 一見弱

っと一体倒せるんだぞ?!」 によって強化された奴らだ、 「馬鹿か?なにも知らないのか?アンデッドは死んだ元の人間が魔 だいたいSランクのハンター2人でや

「え"?まじで?ヤヴェゾンビ強えw」

はかなりいるんだ!」 「笑い事じゃない!!姫様を守りながらなんて…しかもアンデッド

零が殺した兵は100万人以上。終わってるw

「くそっ...どうする...」

アンデッド が あらわれた!! 以外と 強いそうだ!!

まぁ第24話みたいな話だ。 (後書き)

とゆうことで姫の名前はノワールです。

実際、ミルヒオーレにしようとwww (某犬な日々?の) でもやめました。 すみません

6000PV超えました

読者の皆様、本当にありがとうございます。 これからもこんな駄文 でよければお付き合いください。

ではまた次回

まぁ第25話みたいな話だ。 (前書き)

なんか連続投稿?続くなぁ...反動がやばいかもw

よぁ第25話みたいな話だ。

アンデッド達はぞろぞろと寄ってくる。 しかし

「おい零!まだか?!」

「はやくっ!以外にこいつ等強い...」

アリアとカイラが何とか押しとどめている状況だった。

そう急かすなって...えーっと、ここをこうして...ああして?...」

あぁもう!かなり不安なんだが?カイラ本当に大丈夫なのか!?」

大丈夫...セイッ!...兄貴はああ見えてもかなり凄いからな」

現在魔道具を即興で作っていた。 零はアンデッド(めちゃ強い)を止めるほどの結界を張ろうとして、

「アンデッドをこんなに見たのは初めてだよ!! ハッ!セイヤァ!!」 【フレイムソード

私はアンデッド初めてなんですけど...ハァァァァア!!」

すげえ怖い アンデッドは既に死んでいるので恐れずにどんどん近づいてくる。

痛いなぁ !!つ ... 了解しましたぁ できたぁ ---やっ t 早くしろ馬鹿兄貴!!」 グハッ ! ?

うに危険なものに変わっ すると零のふざけていた雰囲気がガラリと変わり、 た。 抜き身の剣のよ

具 【不壊の空間!】」死神零が命じる。 魔を押しとめ、 我らを守り給え! !結界魔

ッドを押し出し、 零がそういった瞬間にその魔道具は効果を現せた。 生きている者に癒しを与えた。 蒼い膜がアンデ

道具は ?本当にこんな短時間で作り上げたのか! 0年以上はかかる筈だが...」 ?こんなに凄い魔

ふー、なんとかなったぁ...あ。 ~疲れた」

(こんなにふざけているが...能ある鷹は爪を隠すとゆうやつか?)

アリアは零を見て、 あらためて零の強さを悟った

「兄貴?この結界はどのくらい持つんだ?」

カイラの疑問に対し

らい?」 「え?そりゃ あ...溜めた魔力が少ないから... ん I だいたい20分く

20分か...かなり少ないな」

零はカイラのその言葉にニヤリと笑っていった

る側ではなく殺す側なんでな」 俺が隠れてばっかのままでいると思うか?俺は死神だぜ?殺され

そういって零は裾が少し焦げているコートに手を突っ込んだ

ようやく目当てのものが見つかったのか、 しばらく 「ん?」とか「ここかな?」とか言いながら漁っていると、 満足気に手をだした

`兄貴?それ使うのか?やばいんじゃあ...」

心配無用!きっとなんとかなるさ!」

ある 零が出したのは一本の儀式用らしき短剣。 柄の辺りに梵字が彫って

あの量のアンデッドでも通用するだろ?... たぶん」 「この【 | 天昇の破邪の剣 (テンノボルマヲハライシモノ】 なら、

零が出したのはセカイにただ一つのもの、 に還らせるもの、 苦しみは与えずに安らぎを与えしもの 魔に墜ちた者を輪廻の中

兄貴、それの発動の代償は?...」

もちろん大きな力には対価が必要だ。 それは何処でも同じこと

えっとだな。膨大な魔力。」

「え?それだけか?」

%くらいのものだし」 あぁ。 でも人間が使えばさすがに死ぬなwだって人間寿命の90

90つ!?はあ、 常識通じないんでしたね。 兄さんには」

ノワー ていない。 ルとアリアは奥のほうで休んでいるのでこの会話には気づい いたらいろいろ言われるだろう。

あれあれぇ?いま兄さんと言ったかい?」

「ツ!?ちがつ///

をチョコチョコ着いてきたもんなぁ」 うんうん。 昔を思い出すねえ。 昔は「兄さん!兄さん」って後ろ

なぁ !?そんなことないです!そんなの記憶にありませんっ

「可愛かったなぁ、小さいカイラはww」

うー、兄さんっ!」

「あっはっは、すまんすまん」

この二人、かなり緊張感がない奴等だった。

まぁ第25話みたいな話だ。 (後書き)

ここでいったんきります。

次回にあの剣が大活躍!するのかな? (おい W

ではまた次回に!

まぁ第26話みたいな話だ。 (前書き)

やっとできたぁ...

原曲は【東方風神録】洩矢諏訪子様のテーマでネイティブフェイス、 ひさしぶりの曲紹介でもやっときますか...ではでは、東方アレンジ 『蛙石』です。かなりすきな曲でございます。

では本編をどうぞ!

まぁ第26話みたいな話だ。

<u>あ</u> <u></u>あ <u></u>あ ぁ <u></u>あ あ " <u></u>あ <u></u>あ あ " あ ツ

た えー っと...詠唱はどんなのだったかな?これは失敗、 忘れちゃっ

忘れちゃった じゃ ないぞ!?馬鹿兄貴どうするんだよ!」

心配は...おそらくないっ!!」

... 根拠は?」

もちろん無い」

「はぁ なのなんだろうな) ぼそっ」 (なんでしっかりしてる時にはカッコいいのに普段はこん

ん?なんか言った?よく聞こえなかったんだけど?」

「いやいやいや////なにもないからな?!」

「そっか」

を壊そうと攻撃してくる。 結構零たちは余裕そうである。 アリアとノワー ルは結界の奥に待機させている。 だが、 アンデッド達は勢いを増して、 零の創った結界はビクともしない。 危険はまず無い。

「あぁ!思い出した!!」

. はやくやってよ?兄貴」

一了解!」

どうやら零も詠唱を思いだしたようだ

である に願い、 できた剣だったその者は、もう自分と同じ思いをする人がでぬよう 【天昇の破邪の剣】、それは愛しき人が魔によって変貌したことでテンノホルマヲハライシモノ でてしまった場合の対処法として作られた聖剣に属する剣

堕ちし者達がいる。 【魔を祓い し剣よ、 この者達を浄化し。 慈愛の心を持ちし剣よ、 安らぎを与えよ!!】 今、 我の前には魔に

る。 しかし、 ンデッド達がまるで焦ったように攻撃を激しくする。 零が詠唱を始めると、 まったく壊れるそぶりを見せない結界にさらに攻撃を強め 【天昇の破邪の剣】が光を発し始めると、テンノホルマラハライシモノ ア

ಕ್ಕ のように。 【天昇の破邪の剣】は零の最後の詠唱が終わった瞬間に効果を見せテンノホルマヲハライシモノ 零を中心に聖なる光が広がってゆく。 水面に広がっていく波紋

あ"あ"あ"あ"あ"あ"。____....

聞こえた。 聖なる光に触れたアンデッ した表情ですなに変わる。 ドは、 そして、 憑き物がおちたようなすっきりと 零やカイラには見えた。

「アリガトウ」・

ただ、 魂のみになった者たちは、 感謝を伝えてソラに昇る。

...不思議なもんだよ...人間ってやつは」 くっ くつくつ。 まったく...アリガトウね、 殺したのは俺なのにな

兄さん』 「そうですね...ですが、 笑っていてはその台詞も台無しですよ?『

悪いな、笑ってて。」

ないのでは?」 「いえいえ、ですが、 アリアさんやノワー ル様に伝えなくてはいけ

そうだったな・・・往くか」

「はい」

零たちは、 アンデッド達だった灰をもう一度見て、 その場を去った...

こ報告

じつは…何故かは分かりませんがパソコンが……大破しました。 どうも、 お休みさせていただきます。 な..... なにがおこった!? 駄目作者のOMEGAでございます。 すみません。 な作者。 新しいpcがくるまで執筆を

ないかな (泣 次回の更新の際には赤黒様とのコラボ作品をだします! はやくこ

以下文字稼ぎ 8 8 8 8 9 9 ${\color{red} 8} {\color{red} 8$ 9 9 9 9 9 9 9 8

まぁクロス作品..ってなにぃ!? って話だ。 (前書き)

ぞ!?ってのがあると。 げないで!!ってのが多数あると思います。そして、赤黒様の魔法 理由は... 前々からだったので! (キリッ あっ!?ヤメテ!石は投 …ので!赤黒様とのコラボ作品でございます (なぜw どうも、 少女リリカルなのは お久しぶりにございます。 オメガです。 パソコンなおった 黒衣の死神のユウ・クロサキのキャラが違う

そんな人はバックホームしてください。.

ながらく、お待たせ?しました

まぁクロス作品…ってなにぃ!? って話だ。

冥界、死神第444番隊 -

「ふひー。今日も終わったー」

今日も仕事していない癖になにを言っているんですか?零さん」

おなじみの光景。ミコに怒られる零がそこにはいた。

今日の仕事...ほとんどの書類は私にきていましたけど?」

· さて、なんのことやら」

「じとー…」

「えぇい!!知らぬ!存ぜぬ!」

仲いいね!キミたち...妬ましい......・・・

「!?いまどこぞの嫉妬深い奴の気配が...」

「気のせいでしょう?きっと」

「デスヨネー」

そんなくだらない話をしながら歩いている二人。 その近くの空間が

歪んでいるのも知らず...

冥界sideout

?side

そのころ、 別次元にて...

プレシア、これは...?」

一応別の次元にいける...とゆう理論がある転送装置よ」

一応って...だいじょうぶか?」

.....理論上は」

おい?今の間はなんだ?」

零たちとは違う『死神』 がいた。 男性と女性、 女性の方はプレシア

とゆう名らしいが?...

おい?プレシア?なんか勝手に動いて....

そんなわけな.....い?あら?ユウ?」

男性はその転送装置の誤作動により『死神』 ユウってゆうらしいね。 (あつ、 ゆうが二つもあるね!ややこしい とであう・

s i d e 0 u t

冥界 sid e

ん?今…」

??どうかしましたか?零さん」

あそこの・ ・空間が歪んだような...?」

- ジジジジジジ... バチィ

空間が歪んだ。 あるで神隠しをおこしたりできる胡散臭いアイツ(・

・) の空間をように..

「零さん...?なんですか・・・あれ!?」

つあな・・・敵か味方か・・・

零はただちに戦闘形態に意識を移行、 るようにナイフを構えた。 すぐに攻撃に移ることができ

どのくらいたっただろうか。 かりで変化がない。 零はとっくにだらけている。 あれから空間はグニャグニャと動くば

空間が不安定すぎるんじゃないですか?ここって一応冥界ですし」 これなんだ?かなり長いな...もう30分たったけど?」

歪んだ空間から人らしき物の手がニュッとでてきたからだ。 そうして話をしながらさらに30分ようやく変化が現れた。 もがいてるようにも見える。 なんか

零はどうする?

引っこ抜く

放っておく

帰る

引っこ抜く

放っておく

帰る

零 は引っこ抜く のコマンドを 選んだ!!

「どっせい!!」

零が思いっきり引っ張るとスポー ちなみにミコは隊舎に知らせに行った ンとでてくる人。

零が引っこ抜いた人?は気絶している。 と唸っている 時折「プレシア...あいつめ

(プレシア?...どっかで聞いた名前だな...どこだっけかなぁ?)」

様な光景だったとか 気絶している人?と腕を組んで考えている零は、 (通行幽霊A) 他者からみれば異

まぁクロス作品..ってなにぃ!? って話だ。 (後書き)

はい!ここまでです!

すみません。二つに切ります。なんか...グダグダ(いつも

次は早くこうしんいたします!

まぁクロス作品..ってなにぃ!?2 って話だ。 (前書き)

では駄文をどうぞ!!ンの調子が…とだけ。 まぁぶっちゃけ二つに切った理由はあまりないっす。 時間&パソコ

まぁクロス作品…ってなにぃ!?2 って話だ。

たいに言いやがって」 みなさんひっどいよねー。 俺は助けたのに俺がやっちゃった...み

も悪いんじゃないですか?」 「あはは...すみません。 でも零さんがああやって考え込んでいるの

て444番隊の警備チームに通報してたし」 「それもあるよね。たぶん。まったく近所の幽霊さん (藤谷) なん

さて、 眠っている。 零が人を引っこ抜いてから30分。 引っこ抜かれた人はまだ

人だったなんて...」 「でも...この人の検査結果はすごく驚きました。まさか平行世界の

ミコはそう言って引っこ抜かれた人をみる。 零はチラリとみてから

そうですね... はやく目が覚めるといいのですが...」 まぁもうすぐこいつの世界も特定できるし、 気楽に待とうや」

そうミコが言った瞬間

「 ! ん

「おやおや、これまたタイミングいいね」

引っこ抜かれた人が目を開けたそして

・・・しらない天j「させねーよ?」む...」

引っこ抜かれた人side

「すっごい不名誉な言われだな。」

「だって名前しらないし」

組こいつらは一強い(別格)だ。自然な動きかと思うと、 人のようなうごきをする。とくに男の方。 ここはどこなのかさっぱり見当がつかない。 だけど、目の前の二人 まるで達

レートついてる?」 「ん?顔になんかついてる?っ!?もしかしてさっき食べたチョコ

「いや...付いていないけど、チョコレートあんの?」

コイツはチョコレー トが好きなようだ。

「よければ食べる?」

まぁ とりあえずいまはチョコレー トをいただこう

s i d e o u t

零か、 よろしくな (ムグムグ)」 お前ユウって名前なのか...あ!俺は零な(ムグムグ)」

はぁ...零さんが二人いるようですね」

仕事をサボったからである ミコはそう言ってため息をついた。 なぜなら零はこれを理由にして

さいです (ゴスッ」ぐはぁ!?」 「まぁまぁ、 あんまイライラしてると皺できるぞ?あははh「

ごく怖いから 女性には年齢に関係あることや体重関係はきいたらだめだぞ!すっ

そんなことをしていながら時間がたった。 の池地獄の) 食べていた二人 (ミコは窓に腰掛けてワインをのんでいました...血 ほぼチョ コレー トばっか

`隊長!世界の特定終わりました!!」

「おぉ!はやいねぇ。で?座標は?」

どうやらユウの世界の座標特定が終わったようだ

211・3956865です」

いけど」 となると...おや?この世界は... 人転生者いるな、 まぁどうでも

「どうでもいいんですかあ?」

だって関係ないし。 お~いユウ、 元の世界に帰れるぞー

ユウはチョコレートを口に詰めたまま

ふぁじふぇ?ふぁりふぁふぉう (まじで?ありがとう)

と言った。ミコは後に「ハムスターみたいだった」と語った。

一世話になったな。零、ありがとな」

きにすんな。 こっちもいろいろ (仕事) 楽できたし」

ユウは隊舎の世界とべるんだぁ!Mk= 2に入って言った

「転送します・ 3 2 転送!」

ユウは転送されるまえに零の

゙対象の記憶を削除。ここでの出来事を消せ」

と言う声を聞いて意識を失った。

ユウside

「・・・ウ゜ユ・・・・」

「ん?…だれの声だ…?」

「ユウっ!大丈夫??」

「っ!?プレシア?」

識を失っていたようだ 目を覚ましたらプレシアが目の前にいた。 どうやら実験の失敗で意

「ユウ...貴方そんなものもっていたかしら?」

プレシアが指し示したところをみたら、 ったアイアン・メイデンの形をした入れ物があった。こんなものど チョ コレー トがたくさん入

^くくっ、プレゼントフォーユー...ッテカ

そんな声が聞こえた気がした

まぁクロス作品..ってなにぃ!?2 って話だ。 (後書き)

結論!私にはコラボ向いていないですね!!むー、 キャラ難しい・ 他の作者さまの

まぁ番外編って話だ。(前書き)

番外編です。まぁ.....やっぱり駄文ですがww

ではどうぞ~

まぁ番外編って話だ。

とある次元。 砂 砂 砂。 辺りいっぱいの砂。 人は砂漠とも呼ぶが

「熱っち~.....」

そんな砂の世界を歩いている一つの人物。 の零だった ぶっちゃけ主人公(笑)

にいってんだか」 「おい?なんだ (笑)って??喧嘩うってんのか!?.....ってだれ

どなど。数え切れないほどの罪があり、 罪人のところである。 ながら後悔せよ』とここに収容した。 零が目指しているのはここ、灼熱地獄の端の砂漠地帯にいるとある 罪状は人間界のセカイでいう殺人、誘拐な お偉いさんたちは『苦しみ

勝手にやると怒られるし」 「まったく……ここに転送のマーカー付けとこうかな……でもなぁ、

零はブツブツと言いながら歩みを止めることなく進む。

「.....お?やっと見えてきたな.....」

プリズン】と呼ばれる監獄 かなりの時間を歩いてやっと見えてきた黒い建物..... 【ブラック・

く痛みというというという。 常時肌がやけるような痛みを伴う。 永遠に続

げで火傷などはしない。 零たちのような死神は特殊な術式を使っている手のアーマー のでスッっと扉に手を押し付ける のおか

【魂認証中.....】

さ、善と悪の比率などは真似できない。 冥界では、 いられる。 ぐにコピーできるからだ。しかし魂は違う。 人間界のように指紋認証などはできない。 そのため、 魂の質、 魂認証装置が用 大きさ、 指紋などはす 強靭

魂認証完了。 死神零、 入室をキョカします】

が開く。 ピー 核弾頭ですら破壊できない硬さを持っている ちなみに扉はアダマンマンという魔法金属で作られている。 ピピピ・ガチャン。 という音とともにそのとっても厚い扉

よう、気分はどうだね?」

な そうだな、 目の前にいる奴を八つ裂きにしてやりたい気分か

569年はたったぜ?普通は発狂なりするだろう?」 そりゃ怖い。 くっくっ お前さん本当に人だったのか?もう1

はっ !くそったれなお前らを皆殺しにするまでは耐えてやるさ」

殺すのか聞きたいものだね」 ほほう。 【神殺し】 の武具を持っていないお前さんがどうやって

気合_

いなア。 「あっはっはっはっはっ 気合ときたか、 はっは!!傑作だ!お前さんやっぱり面白 しかも真面目にいってるからなおさら面白

零と罪人は神などに聞かれたら確実にヤバイ会話をしていた。 二人は慣れたように、 まるで友人のように語り合っている

そんなこんなで時間は過ぎる

-って、 もうこんな時間か。 そろそろお開きだな」

貴様が勝手に来たんだろうが。さっさと帰れ」

そうだな。 お前さん.. :.. なんで、 女 なんだろうな」

「んなこと知るか。帰れシッシッ」

「まったく照れちゃってさ、かわいい奴だなァ」

さっさとどこかにいけ」 照れ ってねえ、 お前はなんなんだ?こんな罪人にかまっていないで

!話ききゃしねぇ」お前さんも聞いてないじゃ なんでかまってるかって?うー ん ? n「さっさと帰れってんだよ

罪人の名前は如月海良齢16歳で死神の鎌によって刈られた罪人。

一俺はお前さんがほしい」

、なっ!?///お前口説きにきたのか?

なんだ?照れちゃって(ニヤニヤ。 まぁ口説きじゃないんがな」

ヤ笑いながら訂正する カイラは突然の零の「 ほしい 発言に狼狽する。 しかし零はニヤニ

俺はお前のその怨嗟の心...神を殺そうとするその心がほしい。

もんなんだろう?」 お前そんなこと言ってていいのかよ?一応神の部下みたいな

集まっていくゴミ溜めみたいなもんだし、 「だって... (クソ野朗) のこと嫌いだし」 ...俺たち死神第444番隊はいわば捨てられた者たちが みんなあのクソ忌々しい

零は清清しいまでの笑顔でそう言った。

つまりどういうことだ?しっかり説明してくれよ」

「いま、 まぁ勧誘?みたいなことしてるのさ」 よ、やっぱり。 俺たちは力を溜めている状態だ。 でも.....黙っているわけにはいかない。 あいつらの方が強いんだ そ・こ・で、

か? 私はお前らも嫌いだ。こんな危険なやつを一緒にいさせてい いの

は勝てないだろう?だかた一時的な協力だ。 「まぁ たら俺たちも殺せばいい。 いずれそうなるだろうな。 だが考えてみろ?神はお前一人で あいつらを殺し尽くし

お前はいいかも知れないけど.....お前の仲間たちはどうなんだ?」

あいつらも神を殺しつくせたらなにも言わない。大丈夫だ」

.. でも私はここから出られない。 無理だ」

「はつ、 この程度造作もない。 つまりはお前を作ればいいんだろう

は?私を作る?」

どうだ?」 まぁ言っちゃえば変わり身?そんなんでお前の代わりをさせる。

なおい」 「まぁすぐに、とはいわn「分かった。 連れて行ってくれ」はやい

「ふん。一時的な協力だ。わすれるな」

「了解だ.....」

- -.....ーーーん...... - - - さん - - - -

「零さん!!聞いていますか!!」

「うわっ!びっくり」

さい!!」 「うわっ!びっくり。 じゃないです!!はやく書類終わらせてくだ

「はいはい……しかし」

「?どうかしました??」

「懐かしい夢みたなぁって」

まぁ番外編って話だ。(後書き)

やべぇ俺がんばった。 次回はこれの続きです!早めに善処します!

まぁ番外編って話だ。 2 (前書き)

...言っていて悲しくなる今日この頃。さあさあ!!駄文タイムだ!!

ではどうぞ!!

あの後、 ていた いった。 零は「まぁ今度来た時に詳しく話そうや」と言って帰って 零が帰っていったあとに残された | 罪人 (海良) は考え

ず......アイツがどのくらい強いのかは分からないけどどうやってこて出来るのだろうか?これは確か上級神の加護が付加されていたは れから?)」 (零の言っていたことが本当だとして.....私をここから出すなんァィッ

分からない なんども考えたが痛みや混乱で考えがまとまらない 分からない

「(ま、 ないな)」 いざとなったらアイツに責任を取ってもらえれば私に害は

そう考えを無理やり締めく くのだった り焼けた鉄板のような寝台で眠りにつ

ガチャン・

' (?なんの音だ?)」

海良は突然の音で目が覚めた。 こうとした瞬間! こんな時間に来客など来るはずが無い。 今は人間界でいう朝の4: そう考えて再び眠りにつ 00頃。

たわ」 グッ トモーニングお嬢さん。 寝顔は可愛いね。 いやぁ いいもの見

うう わああああぁぁぁああ!?なんでいるんだこの変態!

変態とは失礼な。寝顔見てただけなのに」

女性の寝顔を観賞してる時点で変態だろうが!」

零がいました。

ふっふっふ..... いやぁワザワザ朝早くから来たかいがあったね!」

ふざけるな!もう少し寝させろ!」

早起きは三文の得?っていうじゃん」

もう... ...おかげでいつもより3時間以上はやく起きた」

「ニート?」

うだ?」 「ここで私に仕事くれる奴はいないからいいんだ! で?なんのよ

海良は散々零に怒鳴り散らした。 てなかなか真意が掴めない。 しかし零はのらりくらりとしてい 真っ向から聞くことにしたのだ

え?決まってんじゃ h お前をここから出すんだよ」

はぁ!?いくらなんでも早すぎでしょ?!」

「俺に不可能は無いっ!!(キリッ」

「はああああ.....」

海良は悟った。コイツは.....駄目だ.....と

らちゃんとしたもので調べられないかぎりばれる心配は無いぜ」 「まぁこれを使えばお前さんのコピーができる。 魂も類似させるか

と言いながら着ていた黒いコー ものが出てきた。 トから絶対に入りきらない大きさの

· 4次元

ケット?」

Γ.....

おい: ...何か言え。 そして国民的なアニメの作者に謝れ」

そう冷ややかな目で言った海良に零は

「..... 正直..... 後悔しています」

そう言って遠い目をしていた

まぁ番外編って話だ。 2 (後書き)

ここまで!

ここできったら続ききになるかなぁって!?あっヤメッ!石投げな途中半端?いえいえ いで!!ごめんなさいいいいい

時間ないぜ!.....PSPにて投稿です。少ないぞ

まぁ番外編って話だ。 本編やれよ駄作者

た..... 助けてくれ.....」

は己を殺そうとしている存在 暗い路地で一人のニンゲンが助けを求める。 ニンゲンの視線の先に

りしなかったろ?それと同じさ」 助けろ?あぁ無理だよ。 君だって今まで殺ってきた奴等を助けた

に歪めて..... ソイツはまるで【死】そのものだった。 ソイツは口を三日月のよう

もっていきました。 零さん?なに読んでいるんですか?」 そして死神は無情にも鎌を振り降ろし人の首を刈り取り、 魂を

コレ?下界にあった俺達のお話だってさ。

すると目を細めた 零はポイッっと本をミコに放った。ミコは危なげなく本をキャッチ

この本、 下級神の書いたものですね?」

相変わらず地味な手口ですねー。 ご名答。 間違っても俺らを崇めないようにしたんだろうよ 私たちこんなに醜くありません

て苦笑しながら零は言う ミコは口を尖らせむくれながらプンプンッと怒る。 そんなミコを見

さ 「まぁなー。ミコも他の隊員も可愛いしな。まぁ言わせとけばいい

そう言った後に窓の外に顔を向けた零はニヤリと笑うと

勢いるしな」 「どんなにセコい事してても何故か俺達死神を信仰してる奴等は大

こんな日常がある

まぁ番外編って話だ。本編やれよ駄作者 (後書き)

パソコンでしっかり長いのをやりたいな。 東方死神記もよろしく! 宣伝乙

まぁ番外編って話だ。……本編やれよ駄作者…2(前書き)

更新遅れて申し訳ありません。現在パソが使えない状況です。 ストックがぁ (泣

今回のテーマ曲はロックマンゼロの『I,0 Interlude』です。儚い感じですかね Υ o u r F e 1

口く て死んだ少年の無念。 とある学校 屋上で亡くなったヒトの呪い。 その学校には七不思議と呼ばれる怪奇が存在した。 口く 虐め殺され、 首を吊っ

物語が主体のセカイに、 そんな学校で、 こっくりさんが好きな少年が経験する物語 死神はいた。 その

. 無念の想いが.....」

悲しんでいる。 中にいるナニカ。 死神の左眼、 い靄が無数に映っている。 そこ 家庭科室にいる亡者。 で光っている魔法陣を通して視ている景色には黒 校舎の壁にしがみつくモノ、 すべてが何かを恨み、 ロッカーの 嘆き

ていた。 なじみと先輩らしき人間。 死神は少年.....生きている少年達の行動を遠く、 やり方だが封印していく少年。 さまざまな亡霊達に対して、 それをサポートしていく少年の幼 縁のある品などで、 しかし近くから見 かなり荒

七不思議を解いていくか」 封印の仕方は本業には劣るが..... しっかりとできている。 着実に

鎮めて物語は終わる..... 少年は己を見失わずに進んだ. 普通ならば。 そして、 最後の怪奇、 屋上の霊を

は された世界。 このセカイは人間が創り出した世界。 永遠に同じ事を繰り返すように作られている。 ようするにゲー ムなどで作成 終わり

まぁ番外編って話だ。......本編やれよ駄作者...2(後書き)

すみません。この途中半端な奴は続きに続くので。 元ネタわかるヒ

トいる.....かなぁ?

番外編って話だ。 本編やれよ駄作者.. 3

死神はその視線を屋上に向ける。

念の死を遂げた少年……死んでやっと結ばれた二人の姿。 そこに居るのは、 生前、 告白しようとしたが叶わなかった少女と無

少女は屋上に溜まっていた亡者を見てしまい、 かな表情で抱きしめあっている。 れてその身を投げた。そのせいか少年は血だらけだが、 まり死亡し、少年は少女が死んだ後に屋上に来て、 ショックで心臓が止 怨霊にとりつか 二人は穏や

世界は残酷だ。 この様なことを何度も繰り返す。 だから」

そう言って死神は虚空に手を伸ばす。

せめて.....このセカイだけでも幸せになってもいいんじゃ ないか

操作をカクニン。 このセカイを他の次元から切り離します...

息を 死神は願う。 まだ『生』がある者達に安らぎを..... 死んだ者達に安

ふふつ。 また怒られるなぁ。 勝手な事したし...

指定されたセカイのハカイ』 死神は手に持っていた紙、 した後に術式を使ってその紙を燃やした。 指令書を見て、 と書かれていたそうな。 ふっ その紙には『指令。 と考える素振りを

「勝手なことしたし、また色々言われるだろうけど.....でも」

死神はまだ抱き合っている二つの霊を見てから、煙の様に消えた

まぁ番外編って話だ。本編やれよ駄作者.. 3 (後書き)

?.....悪くないしなぁ こんなに幸せそうなんだ。 邪魔するほうが野暮ってもんだろう

<終わり>

本編は終わりませんよっ!?

作品は自己満足多いです。ただ、亡くなった方々にもまだ意志はあ るのではないか?みたいなものです。 これはとあるモノを見て、 作ったものです。 ぶっちゃけた話、 私の

更新がんばりますので。 見捨てないで?!ww

ではまた

まぁ死神の日常って話だ。 (前書き)

ーチュン...チュン...

小鳥のさえずりが聞こえる。 とある部屋

とある部屋で一つの影が動い

「あー.....帰ってきたんだっけ」

経った。 異世界で のアンデット戦やらからあっちでは20年、 冥界では3年

あの後零とカイラはノワー ル達と合流、 ノワー ルの要望で城まで護

が帰ってきたもんだからねぇ..... ま、 城に着いた後は..... まぁ政権争いの最中で、 **−。といったくだらないことをしていやがった。** お疲れさんってものだな 誰が次の王になるのか だが!まぁ

いかな? ん。ノワールは表面は微笑んでたけど、やっぱキモかったんじゃな 好きです!うんたらかんたら~~~~~ 私と契りを結んで頂きたい んなに欲望だだ漏れな太った豚みたいなやつらが「姫!私は貴方が まぁその後はしばらく世界に滞在した。 吐き気した。 だって汗で額テラテラしてたし鼻息荒いんだも 王族って大変だな。

うけど。 俺もなんか貴族っぽいのにたかられたな、ノワールに近ずく為だろ ムスっとしてたし... たまに可愛い娘きた。 なぜ?ノワー ルもアリアもカイラも

帰っ まぁ てきたんだ。 いろいろあっ たけど、 カイラが帰還命令きたから俺も便乗して

まぁ死神の日常って話だ。

いやぁかなり久しぶりの自室だなぁ。 チョコもだけど」

そう言って零は外を見た。 あの世界の空とは違う濁った空だっ

覚えてないや」 「そういやぁなんか居たような.....だれだっけ?だいぶ経ったから

ってきたら襲いかかって来たからネ..... そう、ロルドって名前の奴がなんか代理隊長やってた。 で、 俺が戻

!?何故貴様が?死ねぇ!!」

ってキタカラ

誰?あぁ…田中クン?そっちが消えろ」

と殺っちゃった 。後悔も反省もございません

部隊の仲間からロルドのこと聞いたら

あぁアイツですか?ウザかったですね」

も胸辺りだけ」 私たち(女)には見定めるみたいな視線を向けてきました。 なんか俺たち(男)には近寄るな!っていってましたよ」 それ

と言った状態。ミコは

悪い奴でした」 「慣れ慣れしくていやでした。肩くんできたり手を握ったり...気色

あのミコが此処まで言うのは初めてだよ!おっかないね

ま、終わったんだよなー。次がくるぞ、めんどくせ

まぁ死神の日常って話だ。 (後書き)

秘密ですよはい。無理矢理ですが終わりました。 ノワール達はまだでるのか?

「おいミコ?」

「はい?なんですか零さん?」

「このタイトルなに?」

分かりません。 ついに頭イッたんじゃないですか?」

さあ、 いつも通り作者に毒を吐くミコと零。 なめてんのか?ああ、

?

... コロスゾ、チョウシニノルナヨ?..

すいまっせんでしたーっ!!

「作者弱いな」

· ちょろいもんですよ」

ミコ?何かあったの?僕がいない間に」

ハジメ、世の中には気にしてはイケナイモノがあるんだ」

「.....分かった」

あれ?俺は作者だよね?地位低いような?

「気ノセイサ、ナァミコ」

「ソウデスネ」

おいこらこっち向けや。まぁいいや。

実は.....アクセス解析やってみたら一万超えてたんだ!

ヘー。オメデトー。」

読んで下さった方々ありがとう!

「こんな作品見てくれてありがとな、で?何かやるの?」

.....何やるか?

「駄目だコイツ。早く何とかしないと...」

よぁあれだ。......皆様ありがとうって話だ。

「そんなこんなで適当に制作話になりました」

零さんどうしたんですか?いきなり変な所向いて」

だけど 今はとある場所にて宴会が行われている。 まぁ博麗神社 っぽい所

「おーい!隠せてないぞ!」

「零さんどうしたんですかー!?」

ゲストは腋巫「殺すわよ」ではなく素敵な巫女霊夢様と魔理沙だぉ

「だれ?」

「私は霧雨魔理沙。普通の魔法使いだぜ!」

「 博麗霊夢。巫女」

霊夢に魔理沙な。俺は零、死神だ」

「ミコです。死神です」

わぁ、 丸文ですー すげぇ面子だ!写真とりたいな「どうも~!清く正しい射命 !よびました?」

「よんでないよ? (ないわ) (ないです) (ないぜ)

゙あややや、これはこれは。まぁ一枚」

すごい!飛び入りで文キターーー!

「黙れ、なんだこれ?ただの会話のみ?」

だって、文字がね?

「うわ..... みんなちょっと待っててくれコイツしばいてくる」

またまたご冗談を... あれ?その武器は?あれあれ?ヽドトンシャド ー!!/ぎゃああああああああぁ.....

「ただいま、あいつは逝ったよ」 「お疲れ、ねぇ?零は宴会の片づけ手伝ってくれるわよね?」

まぁあれだ。 皆様ありがとうって話だ。 (後書き)

当たり前だろ?」

「そう.....魔理沙も今回はやりなさいよ?」

げっ!?私もか?」

「当たり前よ。まぁ今は飲むわ」

トホホ... 面倒だぜ.....」

まぁ魔理沙も飲め飲め!今はパァーッといこうや!」

この後、 ながら片づけをする死神がいたそうな..... 酔いつぶれたミコを介抱し、 霊夢と魔理沙を布団に寝かせ

終わりっ

時間ないZE(すみません。

一万アクセスありがとう!これからも?よろしくおねがいします!

んばる

この作品.....いつも作者のノリで作ってるので関連ないよ。でもが

226

まぁ第26話って話だ。

音も。 パンッ !と乾いた音がする。 それに続いてドサッ !と何かが倒れる

ら少し離れた場所に零はいた。 ここは戦場。 血と硝煙の匂いがするコロシアイの場所。 その場所か

~ 、また見~つけた。クククッ!」

していた。目標は抹殺指令されている者。零は何時ものコートのステルスを使い、景色にとけ込みながら狙撃

スコープの中で目標は必死に銃を撃ちながら隠れている。

俺は獲物を逃がさない。 絶対にな 」

を描いた弾は目標の肉体をすり抜け(・・ は有り得ない光景だが、相手は死神なので大丈夫。 その勢いを衰えさせずに弧を描いた。 零は目標に向かってでは無く少し離れた場所に撃っ つまり曲がっ た。 たのだ。普通で 有り得ない弾道 すると弾は 魂に直撃

命中!…… 術式発動、目標の魂を転送!」

転送した。 零は命中を確認すると弾に彫ってあった術式を発動させて魂のみを

るのが分かるけど、 これで最後かな? 銃弾は無いものな」 しかし銃は罪悪感薄い な。 鎌で殺すと肉を斬

「ただ死人を増やすだけなのにな、やはり人間は愚かだ」

まぁ第26話って話だ。 (後書き)

そう呟いた後に零は冥界に帰還する為の術式を地面に描き始めた。

(こりゃあ地獄の案内係りは大変そうだなぁ)」

なんて思いながら

まぁ第27話って話だ。 (前書き)

・現状報告セヨ・

施設通称、運命の水車、 地獄と天国の境、 っている 両方を行き来できる唯一の場所。 。 名前の通りに巨大な水車がゆっくりと廻 それが輪廻転生

今回、 8774589522人、 処分した奴等は86898548554 事故死25795074人。 そしてー」 自然死65

そこにいたのは一人の死神と上級神。

お前等がわざと (・ ・・)殺した奴等は数分かんない。

零の額には青筋が浮き出ていた...

第27話って話だ。

イライラすんなぁ

お疲れさまです。 零さん」

報告する義務がある 零は冥界の一角を任された隊長(押しつけられたとも)。 だ が 定期的に

今日じゃねえじゃん。 しかもなんで3:0 0なんだ!?眠いわ

神は気まぐれ(自分勝手)ですから.....」

でもね?予定は予定だろうよ。 もういいや次叩き起こされたら殺

隊長格は気配察知も優れている。 どうやって零が起こされたか、神が神力を全開にしたからである。 放されると ... まぁ飛び起きて急行したのである の でいきなり知らない力が解

零さん...今日の仕事は休んでいいですよ?私やっておきますから

ホントッ !?やったアリガトミコ!」

うみゃあ!?」

無自覚に。 零は休んで良い。 ミコは顔を真っ赤に紅潮させてアワアワしている。 そう聞いた瞬間にミコに抱きついた。 ... もちろん

とある部隊員の報告―

零さんは猫の様にスリスリとミコにしていて、 隊長の部屋で抱き合っている零さんとミコを見た。 ミコは真っ赤で慌て

違う人は

リア充モゲロを1pびっしり書いていたそうな

まぁ第27話って話だ。(後書き)

短くてゴメンナサイm(____)mスランプ?アイディアないや(^__^;)

まぁ第28話って話だ。(前書き)

「雨雨降れ降れ~なんちゃらが~」

ないようにするためだ。 死神は下界に居る時には基本的に質量がない。 目標以外に目撃され

...やっぱり気分悪いなぁ。 殺ったあとは...」

は嫌がっても楽しんでいる。 は戦闘意欲、 ないからだ。 そう言った零の顔には笑みが浮かんでいる。 殺す事や壊すことしか考えない(・・ 零の左眼、眼球に居る意識がいまの零。 今は零であって零では 戦闘用の意識 言葉で

白かッたしいいか」 はア、 そロソろ零二変わラなキテはナ...くククっ、 マぁ面

ワラウ。 が満ちる。 ピシャァ その瞬間零の左眼の中でナニカがニタリとわらう、 ! !と雷が何処かに落ちる。 雷によって一瞬光で空間 笑う、

あぁ、 この眼抉り取ってやろうかな?なんてね」

いつもの零はんー、と体を伸ばす。そして呟く

 \neg 神も人も変わらないさ。 傲慢で強欲、 神の方が気持ちが強いかな

その左眼には刈った魂の姿がただ映っていた

まぁ第28話って話だ。

痛い発言したからこんなの見つけたのかな?」

ソレ(・ 零は困ったように目の前のゴミの山...に埋もれている物を見つめる。 よく見ると間接部分がメカメカしい。 ・)は一見小さくなっただけの人間の様なリアルな人形。

ロボット...か?すごいなこのセカイの技術は

は壊れていた。 冥界の技術まではいかないが凄い作品だった。 しかし大体の人形?

うゆうものなのだー、 零はしばらく考えたあと、ゴミの山をかき分けて、比較的損傷が軽 いモノを集めた。 寧に包む。 全てが女性を模していた事に疑問を持ったが、 と結論付けた。 集めた人形は自分のコートで そ

さーって、 今夜は徹夜だ!この娘達を直そう...」

だった 懐の帰還魔導具を使って帰るまで零は今夜のプランを練っていたの

まあ第28話って話だ。(後書き)

本格的にヤバい……駄作者の癖にスランプ?だと!?訳わからぬ (

更新待っていてくれている皆様申し訳ありません。 ... 期待しないでください なります。一ヶ月に一回は更新できる... ようにがんばってみますが しばらく鈍亀に

お知らせ

たい ^ ん申し訳ありません。 この作品を書き直すことにしました。

理由は、 です。 なので 最初から見て『 なんだ?この粗さは と思っ たから

新しくこの『 死神さんたちの日常』を作ろうと思います

読んでくれていた皆様、ごめんなさい

の作品は、 明日には検索対象から消させて貰います。

以下文字稼ぎ

アア 亜嗚呼嗚呼ア 7 アアア 嗚呼嗚呼 アア ア ア ア亜アア ア ア アア アア アア アア アア アア 亜アア アアア アア ア アア アアアアアアア ア アアア ァ ァ ア ア ア ああ アア ア ア ア 亜ア ア ア アア アア アア アア ア ア ア ア ア ァ アアアアアアアアア アアアアアアア 嗚呼アアアアア ア ア ア ア ア ア アアアアアアアア ああああアア ア ア ァ アア アア アア ア ア 7 亜アア 嗚呼嗚呼あああ 嗚呼ア アアア アア アア ア嗚呼嗚呼ア ア ア ア アアア ア ア アア アア アア アア ア ア ア ア ア ああ ああ アアアアアアア アア あああ アア ア アアアアアアア ア ア ア アア あア アアアアア ア ア 嗚呼アアア あああアア アアアアア ア ア ア ア ア ア ア アアア ア ァ

あああああああああああああああああああああああああああああ アアアアアアアアアアアアアアアアアああああああああ

ああああああああああああ

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 など 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きイ 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 の縦書き小説 います。 ・ンター そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 堪たD 能のF ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 存書籍 は 2 0 タ いう目的の 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n7442s/

死神さんたちの日常

2012年1月6日21時45分発行